

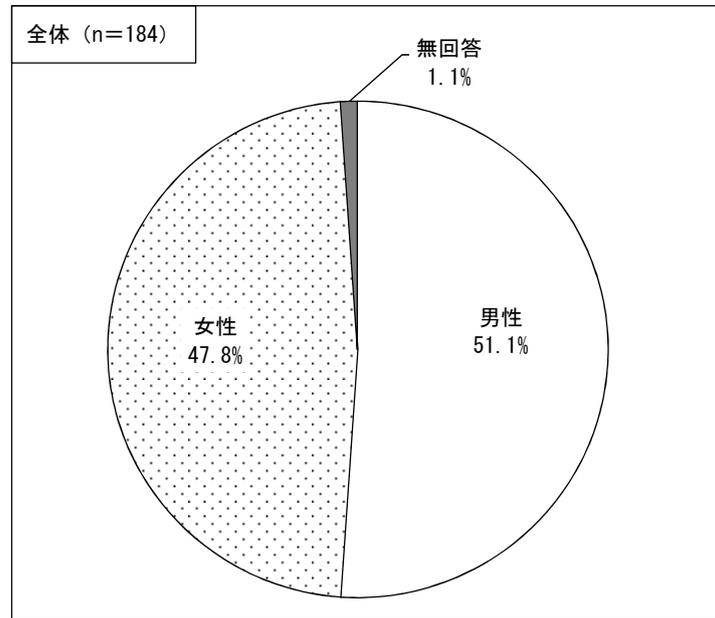
## 中学生アンケート 調査結果

※ アンケートの集計結果における「無回答」には、無効な回答も含めています。



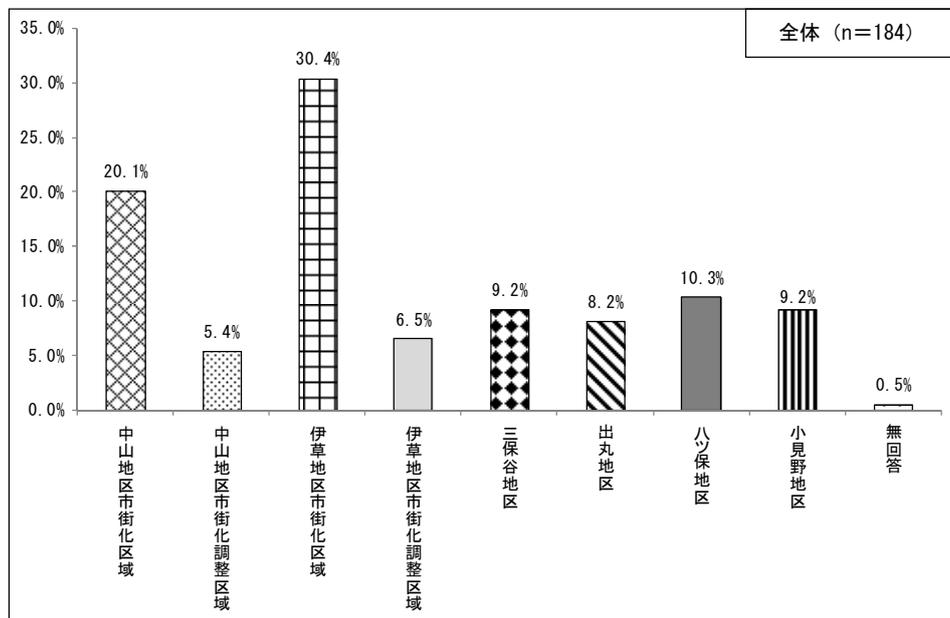
# 1. あなたやあなたのご家族について

## 問 1-1



「男性」が 51.1%、「女性」が 47.8%と、男性の割合が若干多くなっています。

## 問 1-2

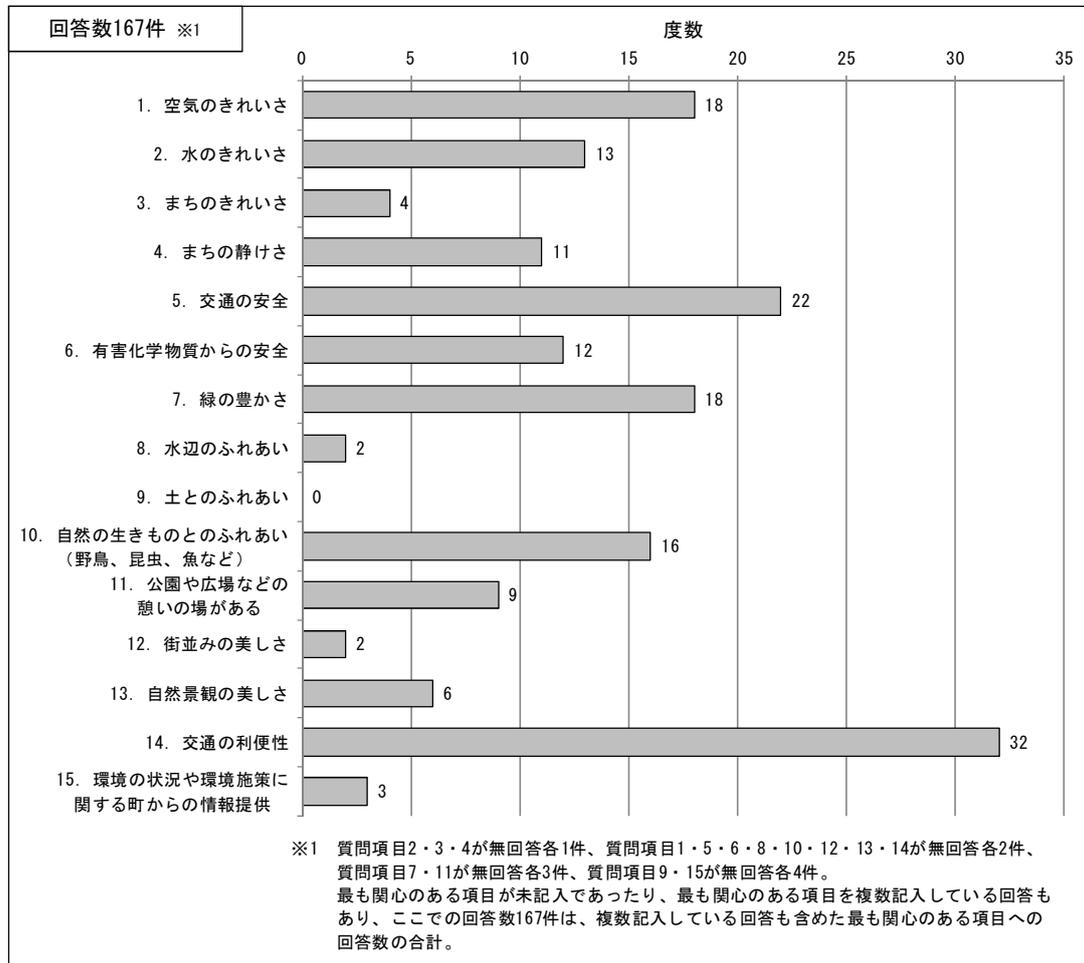


居住地については、「伊草地区市街化区域」が 30.4%と最も多く、次いで「中山地区市街化区域」(20.1%)、「八ッ保地区」(10.3%)の順となっています。

## 2. あなたの身近な環境に対する意識について

### 問2

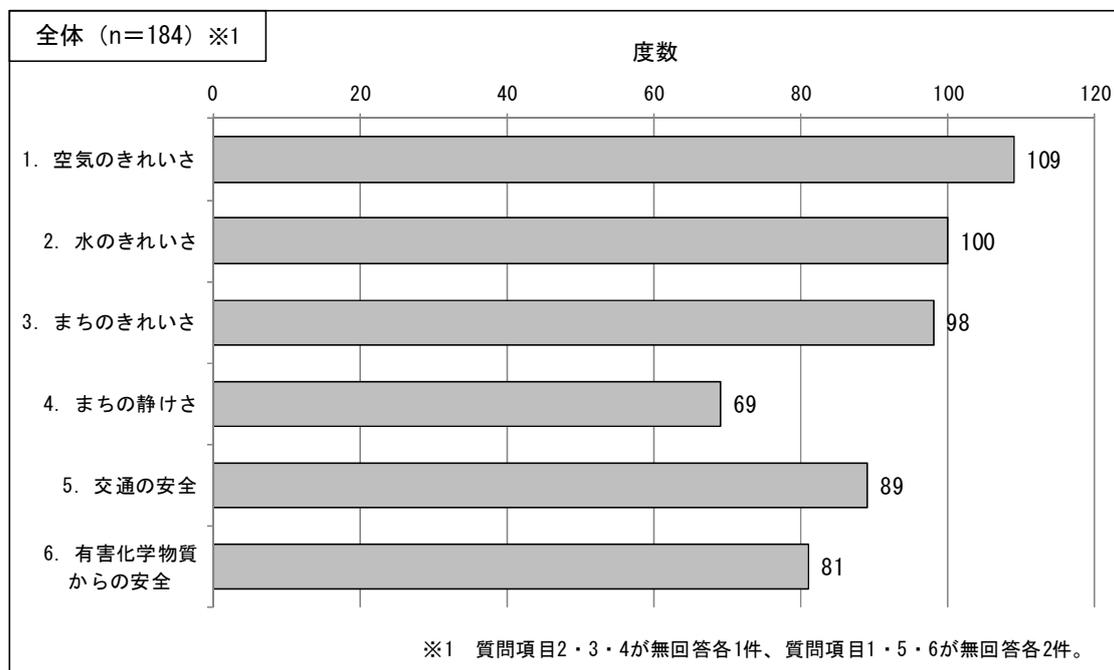
- 最も関心のある環境



すべての項目の中で最も関心のあるものとして、「交通の利便性」が32件と最も多くなっています。次に多い項目が「交通の安全」(22件)であり、交通に関する環境について関心が高くなっています。自然環境とのふれあいの視点で見ると、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」は16件と多くなっています。その一方で、「水辺のふれあい」(2件)や「土とのふれあい」(0件)は少なくなっており、生物とのふれあいに関心が高いことがうかがえます。

(1) 生活環境について

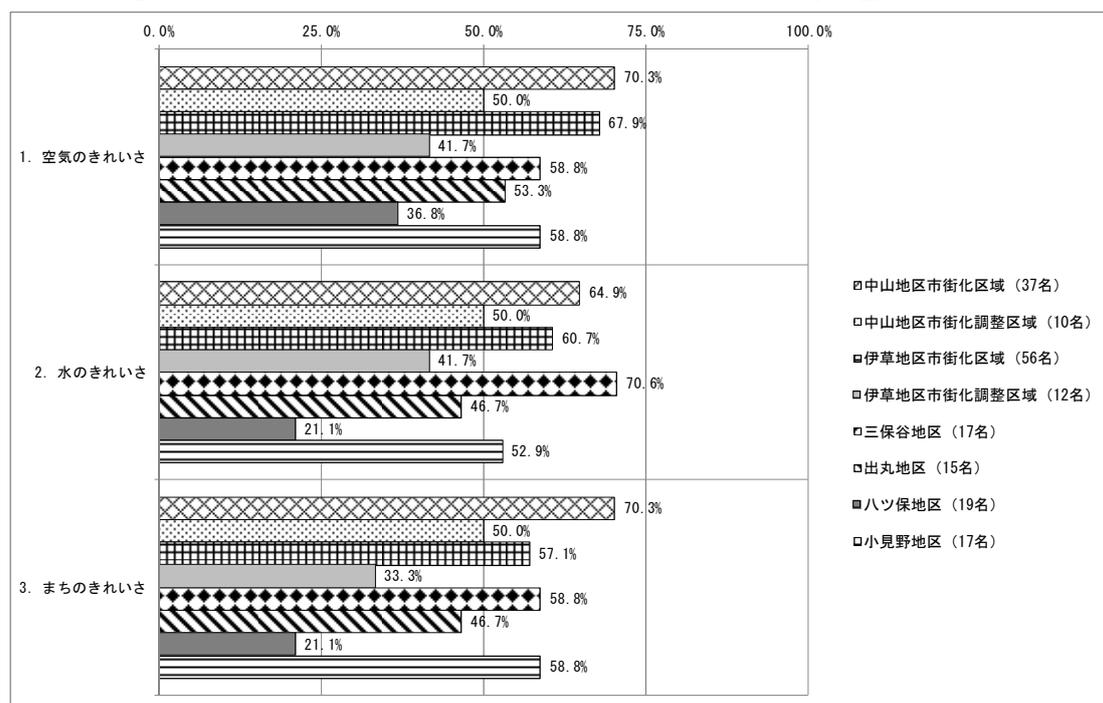
■ 関心度



生活環境の関心度については、「空気のきれいさ」(109件)、「水のきれいさ」(100件)、「まちのきれいさ」(98件)の順に関心度が高くなっています。「まちの静けさ」を除く項目で、関心があるとの回答が80件を超えており、きれいさや安全性に対して関心を持っていることがうかがえます。

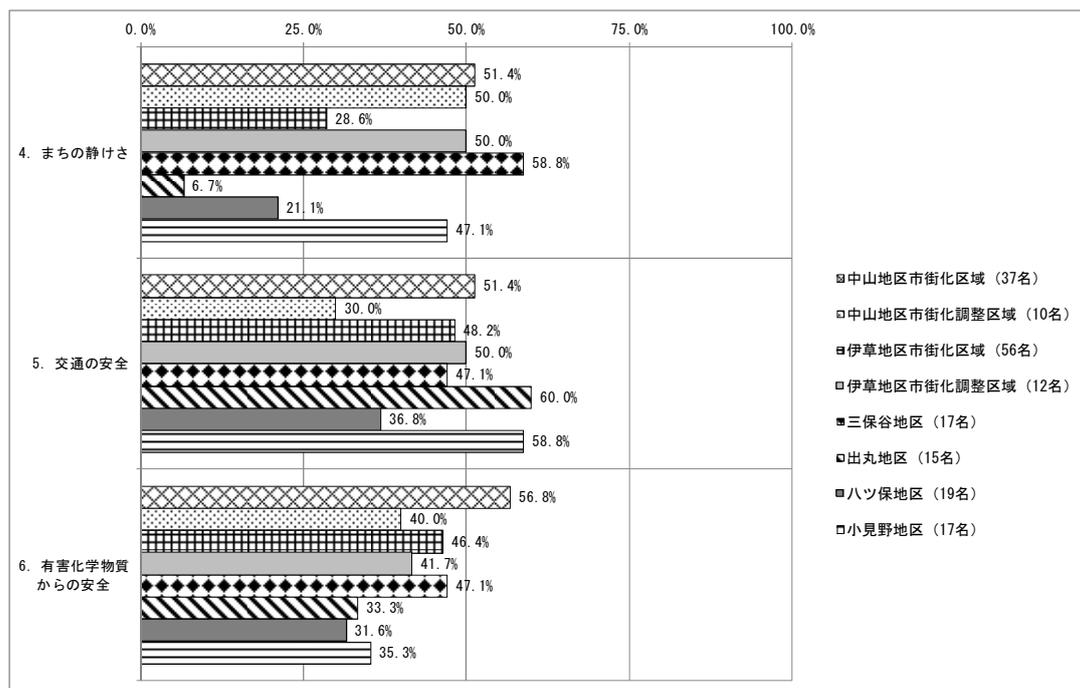
生活環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します(各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合)。

下図は、きれいさ(質問項目1~3)に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



中山地区市街化区域は、他の地区と比べて 3 つの項目とも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。伊草地区市街化区域、三保谷地区、小見野地区も、3 つの項目で関心を持っている回答者の割合が 50～60%となっています。一方、伊草地区市街化調整区域と八ツ保地区は、他の地区と比べて関心を持っている回答者の割合が低くなっています。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

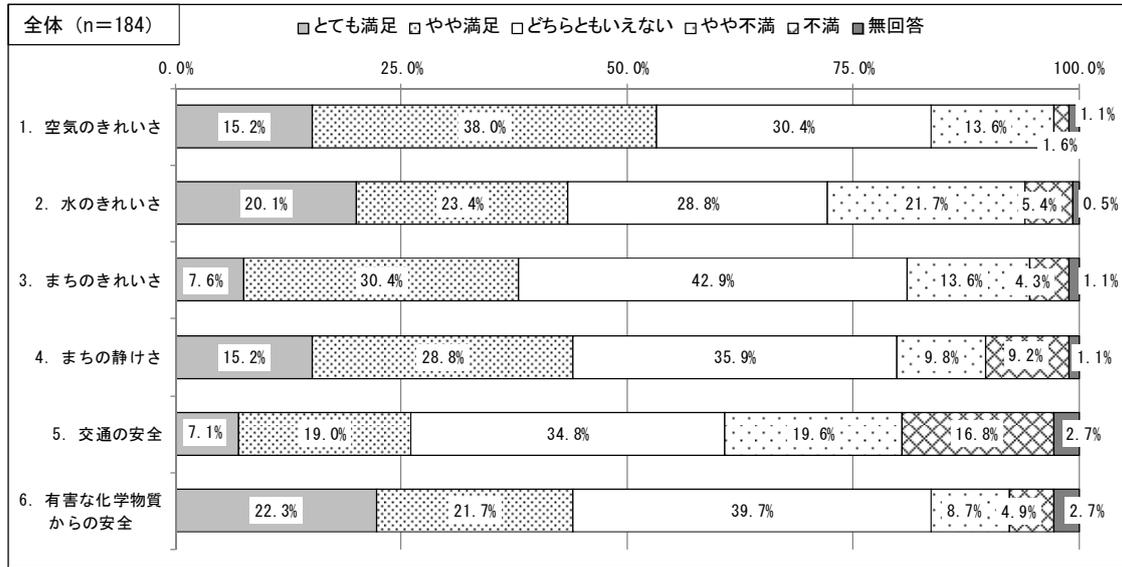


「まちの静けさ」については、三保谷地区において関心を持っている回答者の割合が最も高く、出丸地区において割合が最も低くなっています。

「交通の安全」については、多くの地区で 50%前後の回答者が関心を持っていますが、出丸地区と小見野地区で約 60%の回答者が関心を持っており、他の地区よりも高い割合を示しています。

「有害化学物質からの安全」については、中山地区市街化区域が 56.8%と、唯一 50%を超える回答者が関心を持っています。

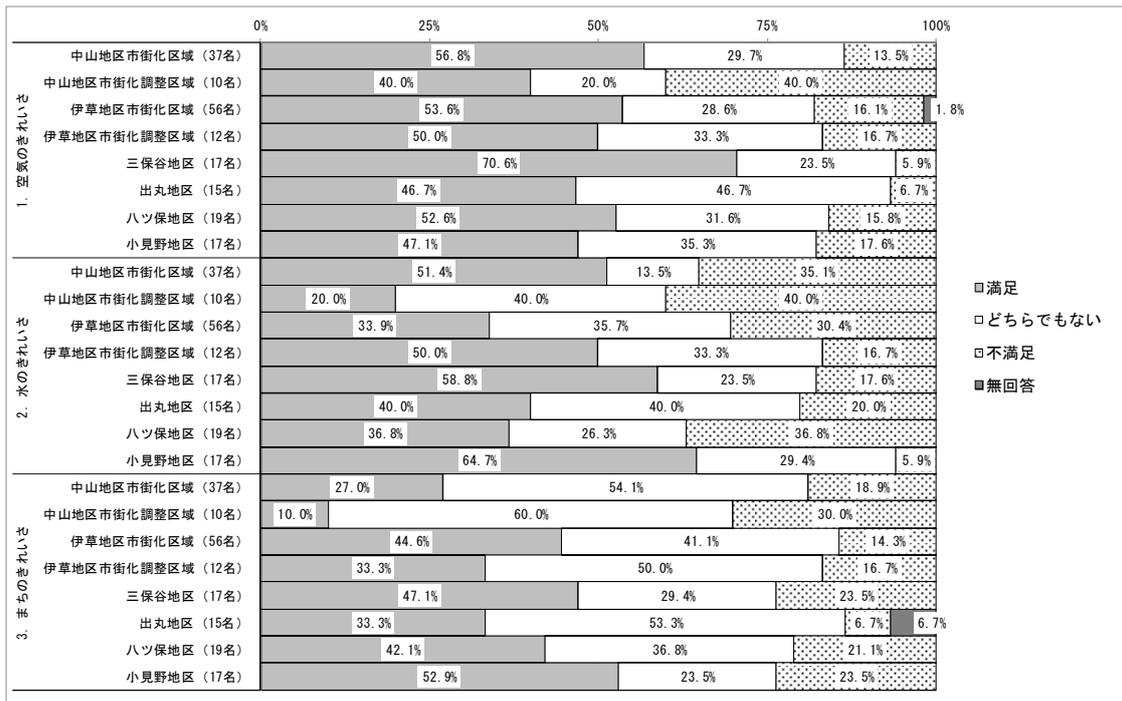
■ 満足度



生活環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「空気のきれいさ」(53.3%)、「まちの静けさ」と「有害な化学物質からの安全」(44.0%)、「水のきれいさ」(43.5%)の順で高くなっています。最も関心のある項目で2番目に高かった「交通の安全」については、「不満」と「やや不満」の合計が36.4%と一番高く、交通の安全性の低さから関心が高くなっていると考えられます。

生活環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度（「とても満足」と「やや満足」の合計）の割合と不満足度（「不満」と「やや不満」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目1～3）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

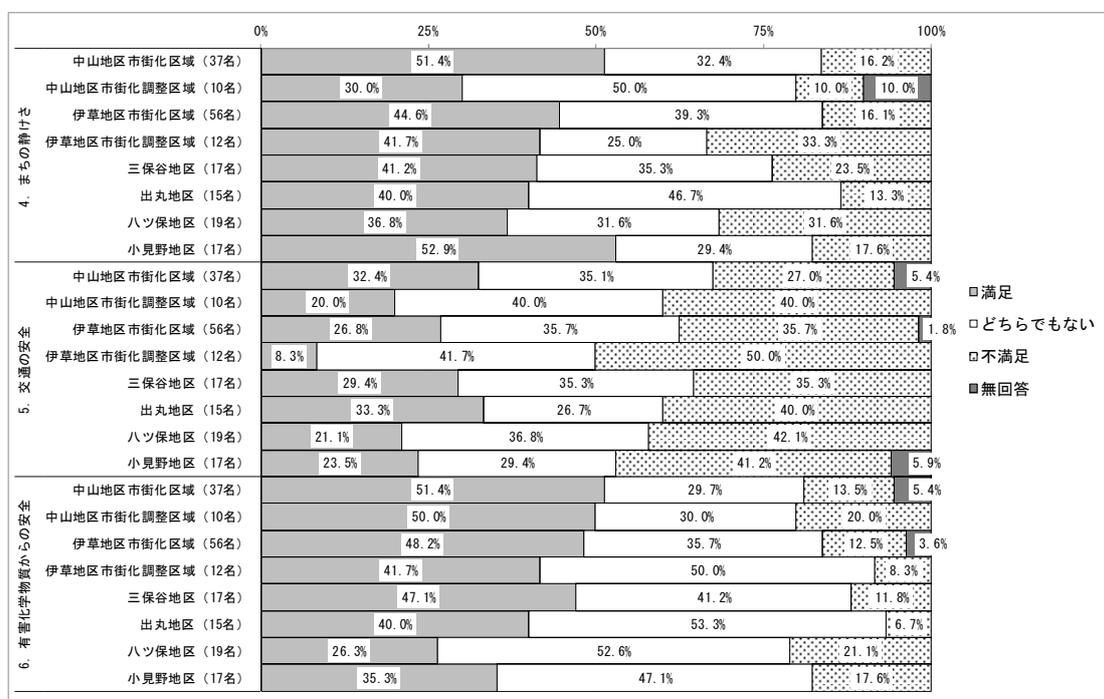


「空気のきれいさ」については、ほとんどの地区で「満足」が 50%前後となっていますが、三保谷地区では「満足」が 70.6%と特に高くなっています。一方、中山地区市街化調整区域は、「満足」も「不満足」も 40.0%と他の地区と比べて満足度が低くなっています。

「水のきれいさ」については、小見野地区において最も満足度が高く（64.7%）、中山地区市街化調整区域において満足度が最も低くなっています（20.0%）。中山地区市街化区域は「満足」が 51.4%と比較的高い一方で、35.1%の回答者が「不満足」と感じています。

「まちのきれいさ」については、小見野地区において最も満足度が高くなっていますが（52.9%）、「不満足」の割合が最も低いのは出丸地区（6.7%）です。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。

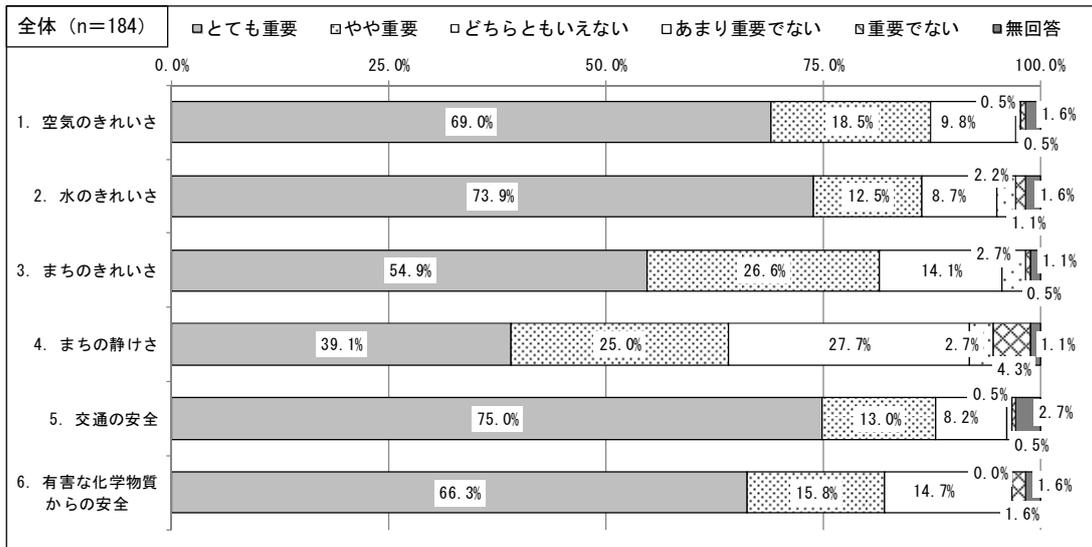


「まちの静けさ」については、「満足」に関しては小見野地区が 52.9%と最も高く、中山地区市街化調整区域が 30%と最も低くなっています。しかし、「不満足」に関しては、伊草地区市街化調整区域（33.3%）と八ツ保地区（31.6%）が他の地区と比べて高くなっています。

「交通の安全」については、中山地区市街化区域を除いて、「満足」よりも「不満足」の割合の方が高くなっており、特に伊草地区市街化調整区域においてその傾向が顕著です。

「有害化学物質からの安全」については、全体的に「不満足」よりも「満足」の割合の方が高くなっていますが、八ツ保地区の「満足」の割合（26.3%）は、他の地域と比較して若干低くなっています。

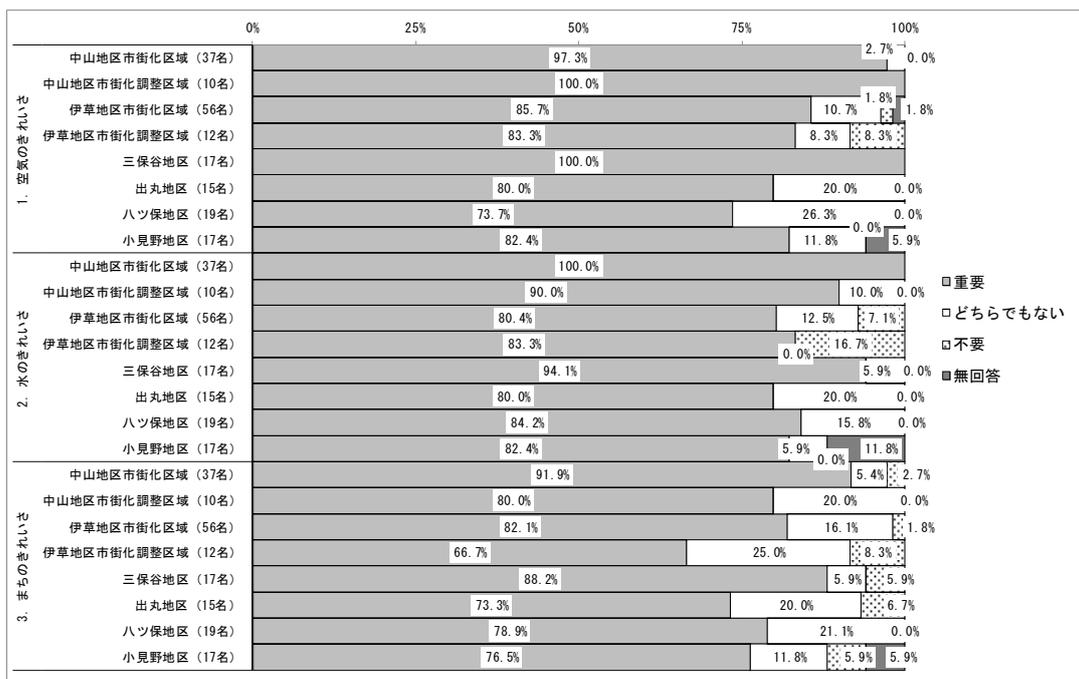
## ■ 重要度



生活環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が、「まちの静けさ」を除いて 80%を超えています。順位は異なりますが、関心度の高い項目が、重要度も高くなっています。

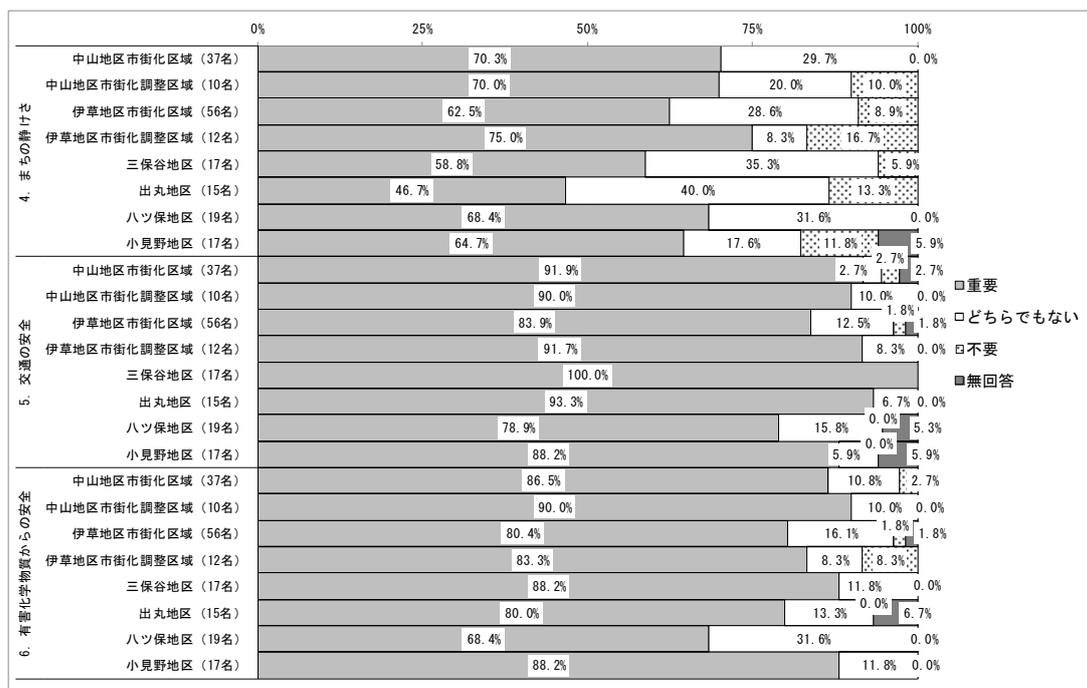
生活環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、きれいさ（質問項目 1～3）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



「空気のきれいさ」、「水のきれいさ」、「まちなりのきれいさ」について、重要であるとの回答の割合は、地区ごとに若干の違いがあるもののすべて 60%以上であり、どの地区でも「重要」と考える回答者が大半であることがわかります。

下図は、静けさ・安全（質問項目 4～6）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

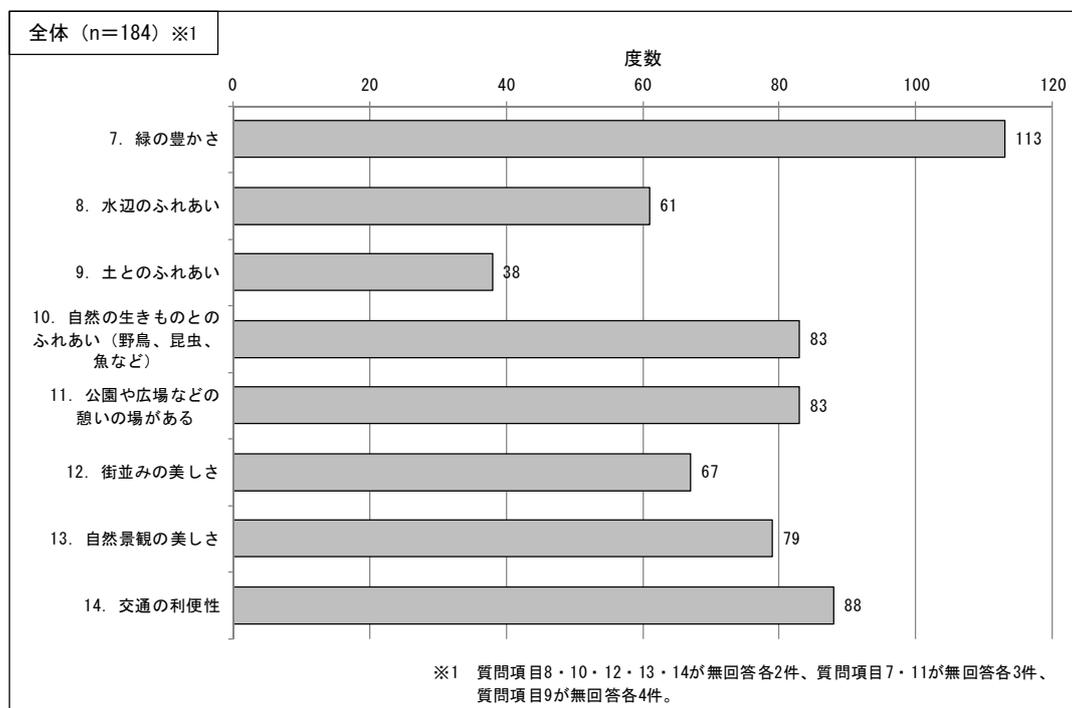


「まちなりの静けさ」については、出丸地区を除く地域で「重要」が 50%を超えています。伊草地区市街化調整区域は、「重要」の割合が 75.0%と最も高い反面、「不要」(16.7%)の割合も最も高くなっています。

「交通の安全」と「有害化学物質からの安全」については、どの地域も「重要」の割合が高くなっています。

## (2) 自然環境や快適環境について

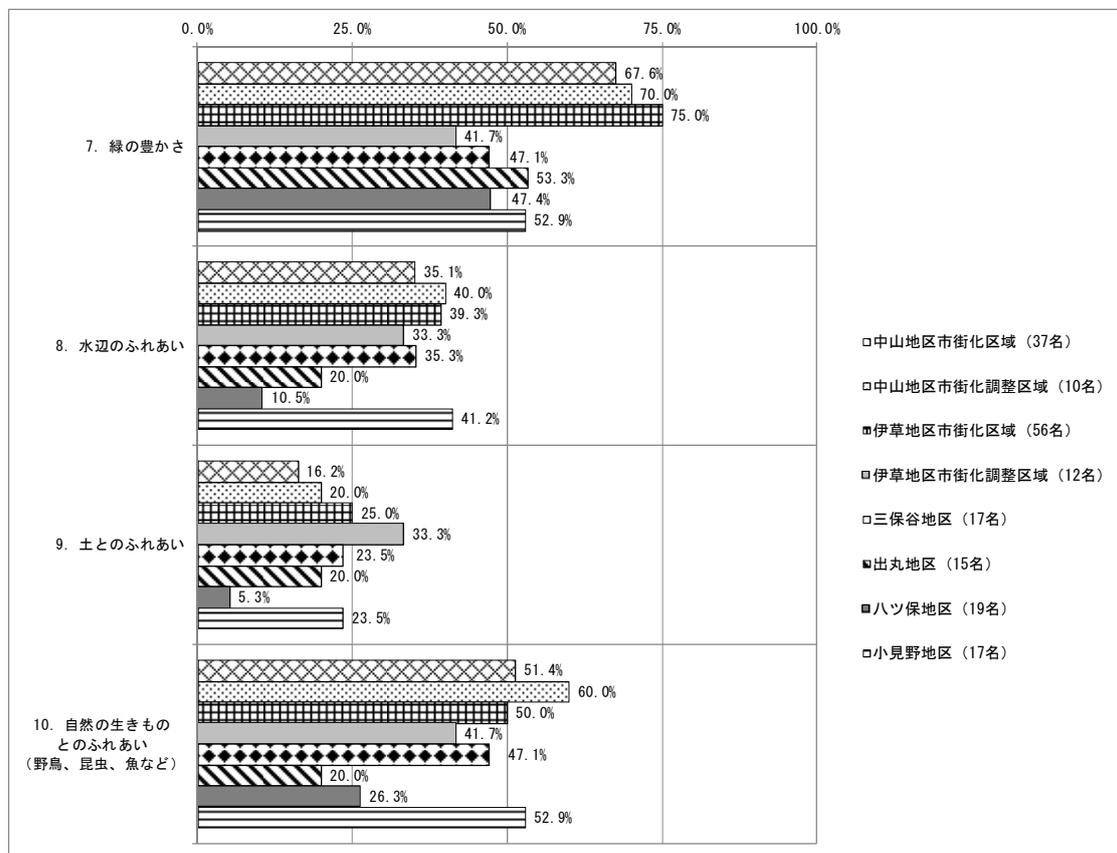
### ■ 関心度



自然環境や快適環境の関心度については、「緑の豊かさ」が 113 件と最も関心度が高く、次いで「交通の利便性」(88 件)、「自然の生きものとのふれあい (野鳥、昆虫、魚など)」と「公園や広場などの憩いの場がある」(83 件) の順となっています。

自然環境や快適環境の関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します (各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合)。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。

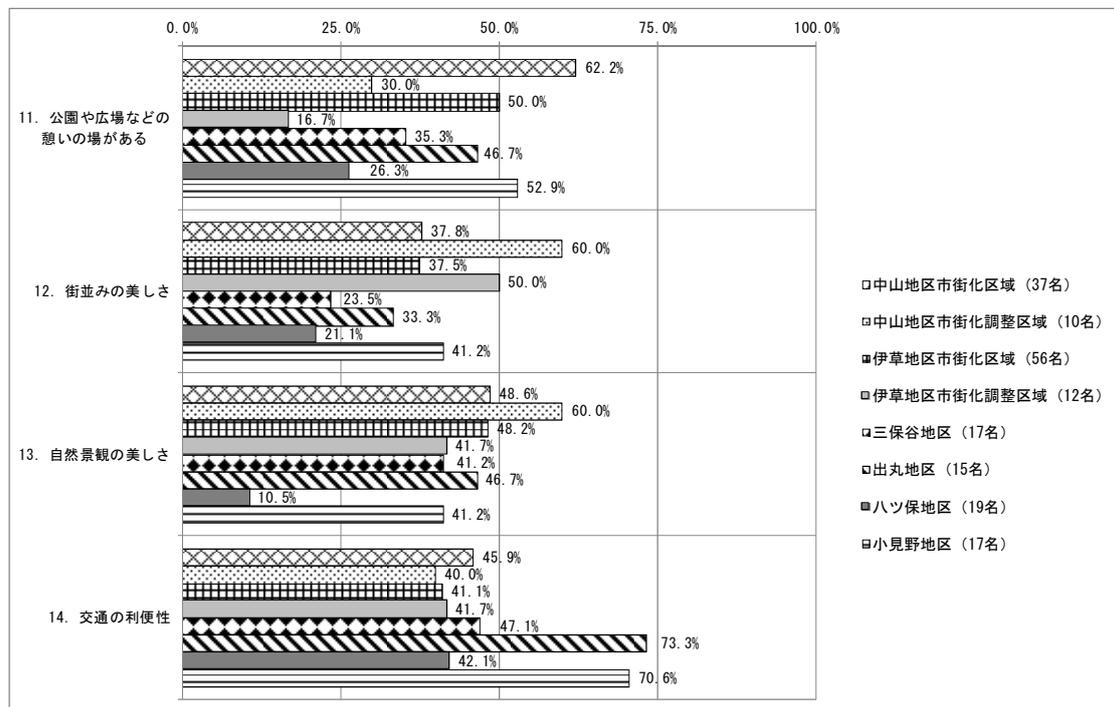


「緑の豊かさ」については、すべての地区で40%以上の回答者が関心を持っています。中山地区市街化区域、中山地区市街化調整区域、伊草地区市街化区域では、約70%の回答者が関心を持っており、高い関心が示されています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、すべての地区で関心を持っている回答者の割合が50%に満たず、特に八ツ保地区において割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい（野鳥、昆虫、魚など）」については、半数の地区で50%前後の回答者が関心を持っていますが、中山地区市街化調整区域が60.0%と若干高くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の関心度の違いを示した図です。



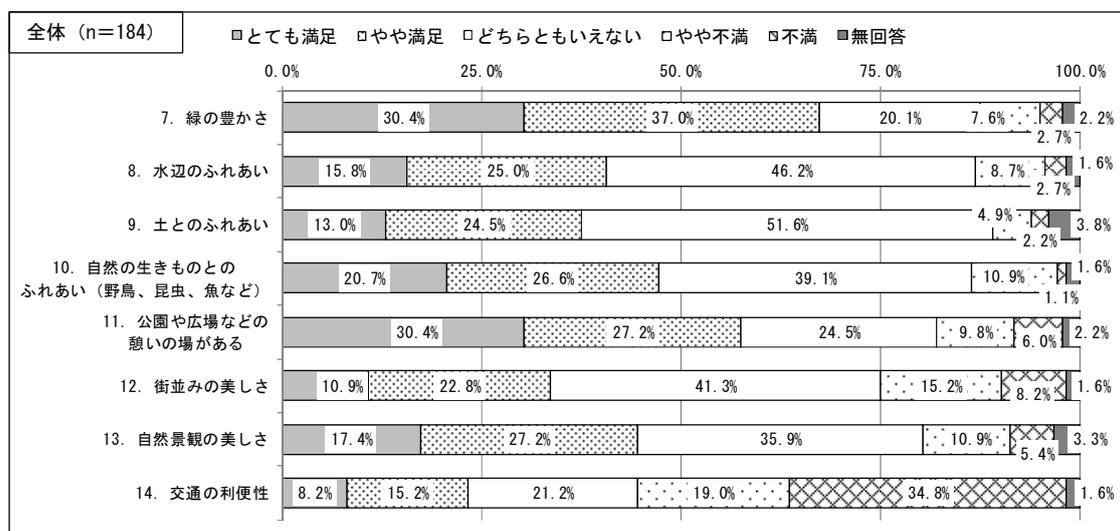
「公園や広場などの憩いの場がある」については、市街化区域（中山地区市街化区域と伊草地区市街化区域）や小見野地区で、他の地区よりも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

「街並みの美しさ」については、市街化調整区域（中山地区市街化調整区域と伊草地区市街化調整区域）において、他の地区よりも関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

「自然景観の美しさ」については、八ツ保地区を除く地区で、40%以上の回答者が関心を持っていますが、中山地区市街化調整区域（60.0%）が他の地区よりも高くなっています。

「交通の利便性」については、特に出丸地区（73.3%）と小見野地区（70.6%）が、関心を持っている回答者の割合が高くなっています。

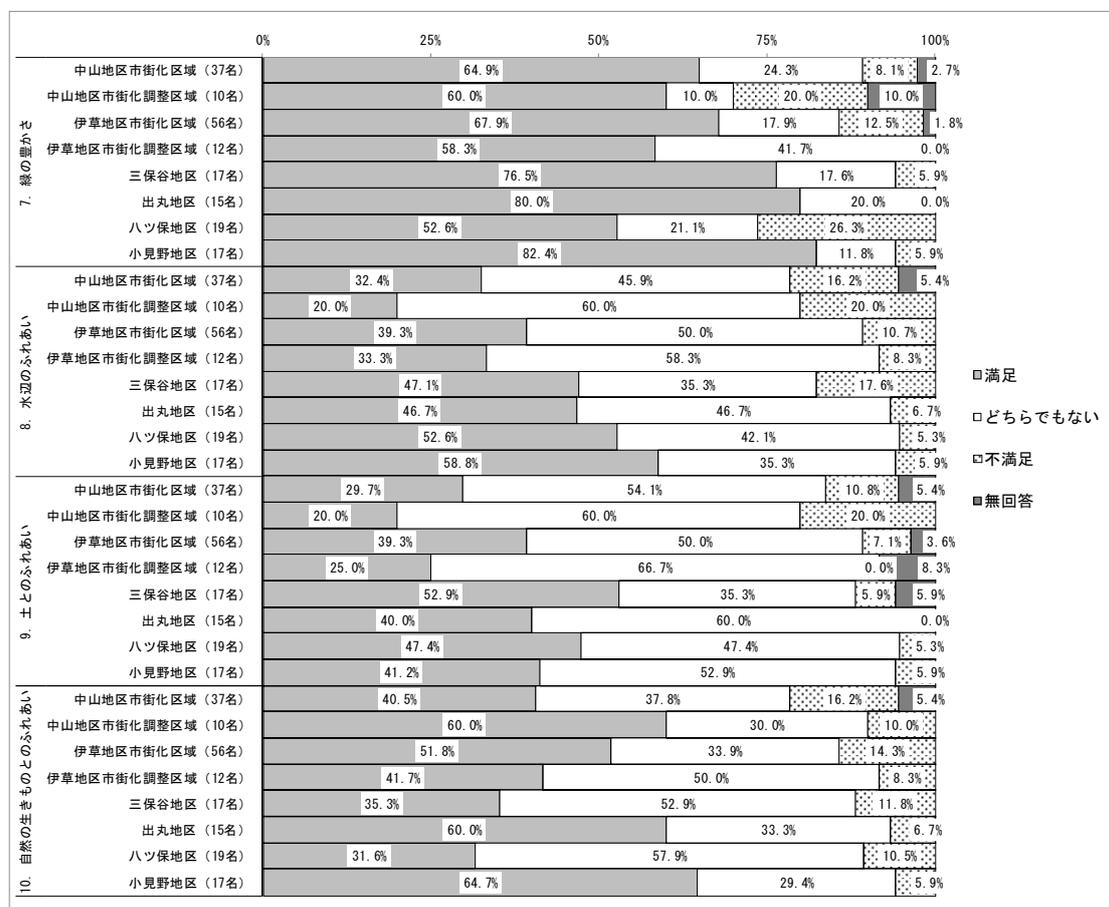
## ■ 満足度



自然環境や快適環境の満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が「緑の豊かさ」(67.4%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(57.6%)、「自然の生きものとのふれあい(野鳥、昆虫、魚など)」(47.3%)の順で高くなっています。「交通の利便性」は、「不満」と「やや不満」の合計が53.8%であり、生活環境の「交通の安全」も他の項目と比較して満足度が低くなっており、交通環境への満足度が低いことがうかがえます。

自然環境や快適環境の満足度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の割合と不満足度(「不満」と「やや不満」の合計)の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



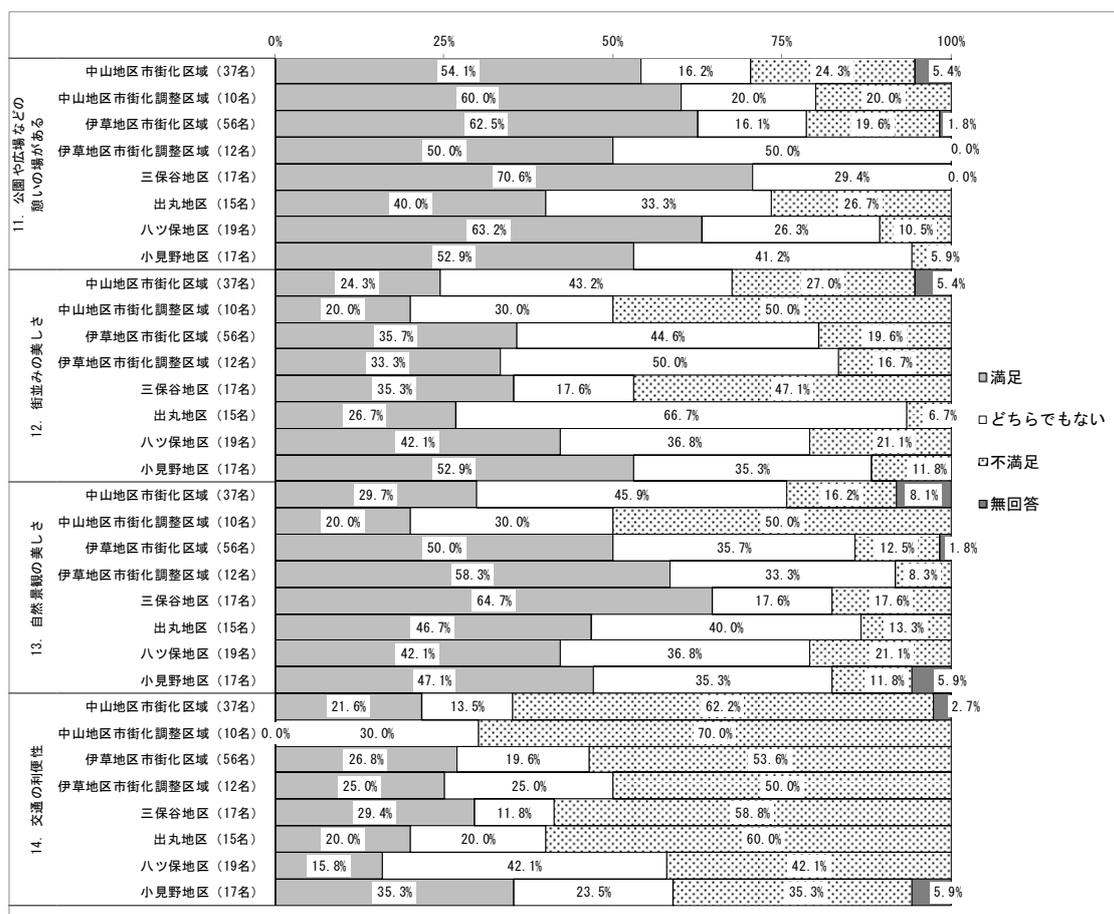
「緑の豊かさ」については、すべての地区で半数以上の回答者が「満足」と感じており、特に小見野地区（82.4%）や出丸地区（80.0%）が特に高くなっています。

「水辺のふれあい」については、小見野地区（58.8%）と八ツ保地区（52.6%）において、半数以上の回答者が「満足」と感じています。

「土とのふれあい」については、全体的に「どちらでもない」の割合が高く、「不満足」の割合が低くなっています。

「自然の生きものとのふれあい」については、小見野地区（64.7%）、中山地区市街化調整区域（60.0%）、出丸地区（60.0%）において「満足」が60%を超えており、全体的に「不満足」の割合が低くなっています。

下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の満足度の違いを示した図です。



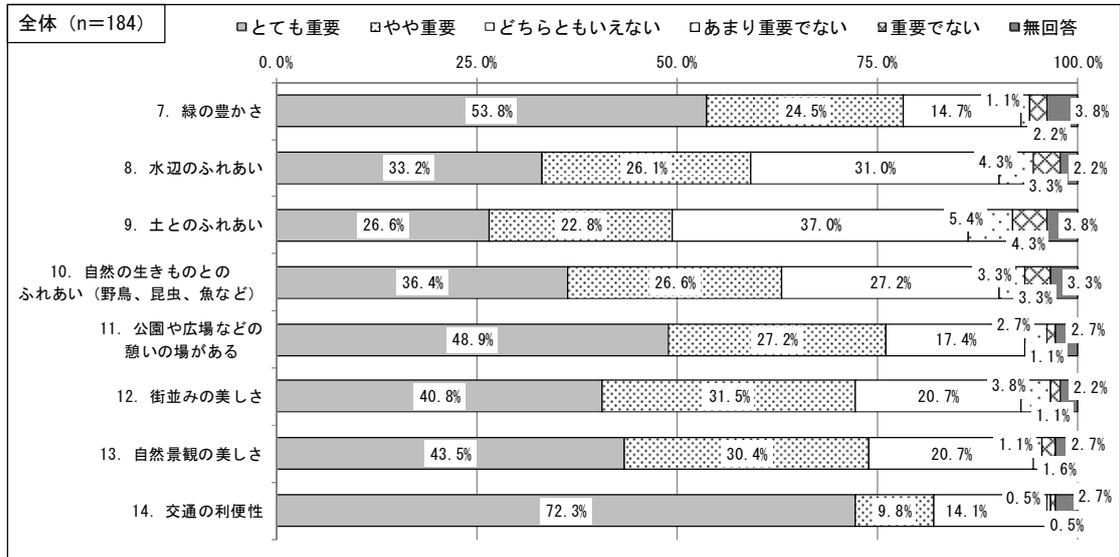
「公園や広場などの憩いの場がある」については、出丸地区を除いて半数以上の回答者が「満足」と感じており、伊草地区市街化調整区域と三保谷地区においては「不満足」の割合が 0.0% となっています。

「街並みの美しさ」については、中山地区市街化調整区域 (50.0%) と三保谷地区 (47.1%) において、約半数の回答者が「不満足」と感じています。

「自然景観の美しさ」については、中山地区（市街化区域・市街化調整区域）において「満足」の割合が他地域よりも低く、特に中山地区市街化調整区域では 50% の回答者が「不満足」と感じています。

「交通の利便性」については、全体的に「不満足」の割合が高く、特に中山地区市街化調整区域では「満足」と感じている回答者は 0.0% となっています。

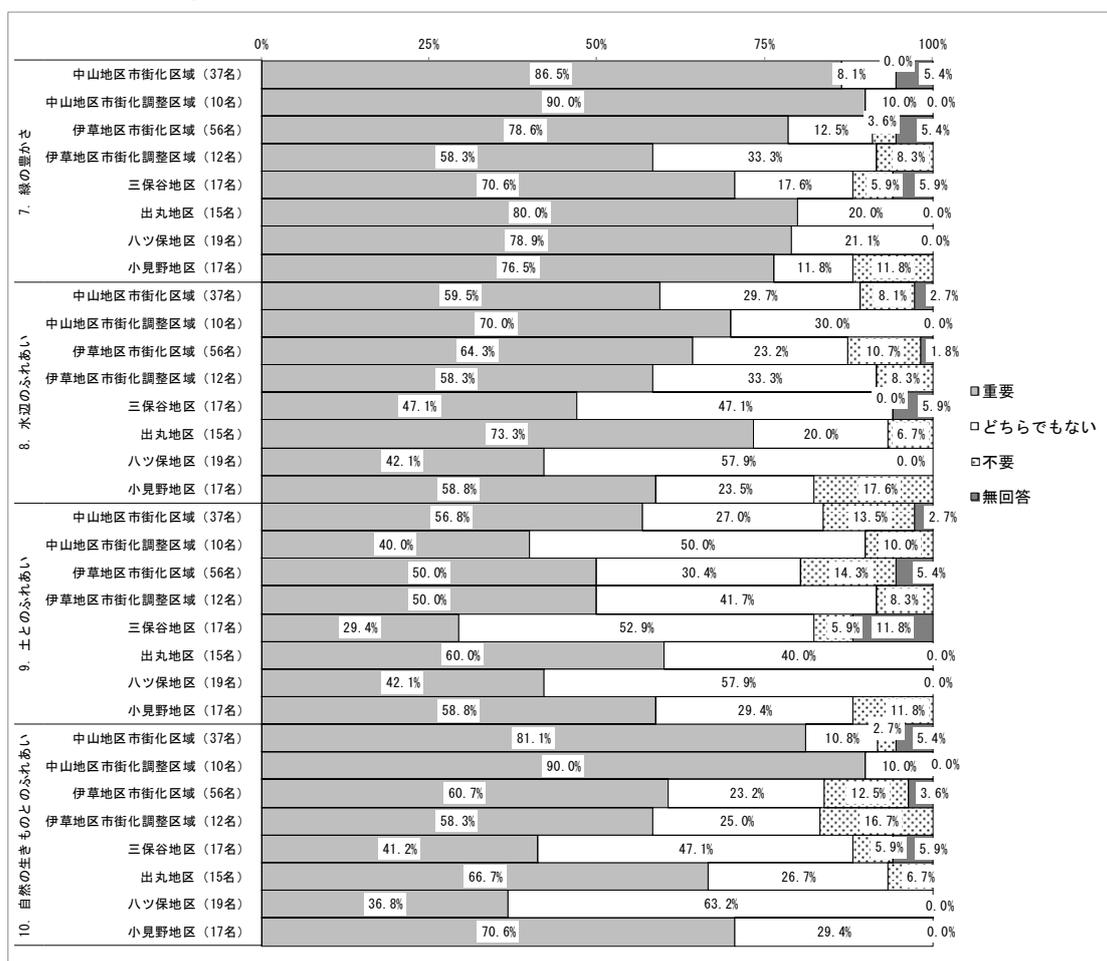
■重要度



自然環境や快適環境の重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が「交通の利便性」(82.1%)、「緑の豊かさ」(78.3%)、「公園や広場などの憩いの場がある」(76.1%)の順で高くなっています。満足度の低かった「交通の利便性」の重要度が1番高くなっていることから、利便性の向上が期待されていると考えられます。

自然環境や快適環境の重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要度（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。

下図は、自然の豊かさ・ふれあい（質問項目7～10）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。

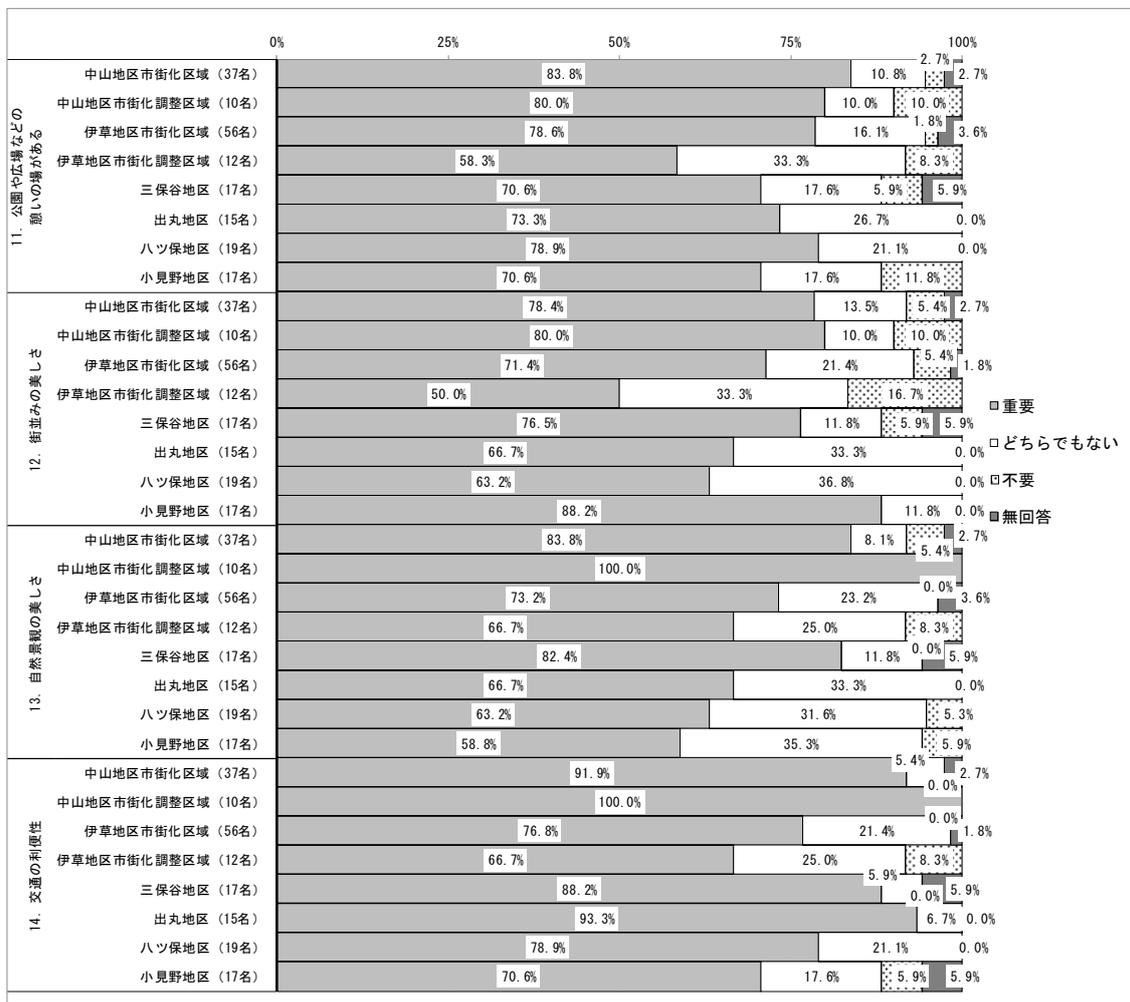


「緑の豊かさ」については、伊草地区市街化調整区域において「重要」の割合が 58.3% と他の地域と比較すると若干低くなっていますが、全地域において高い割合を示しています。

「水辺のふれあい」と「土とのふれあい」については、「重要」の割合は出丸地区で最も高くなっています。（それぞれ 73.3%、60.0%）

「自然の生きものとのふれあい」については、「重要」の割合が中山地区市街化調整区域（90.0%）と中山地区市街化区域（81.1%）で特に高くなっています。

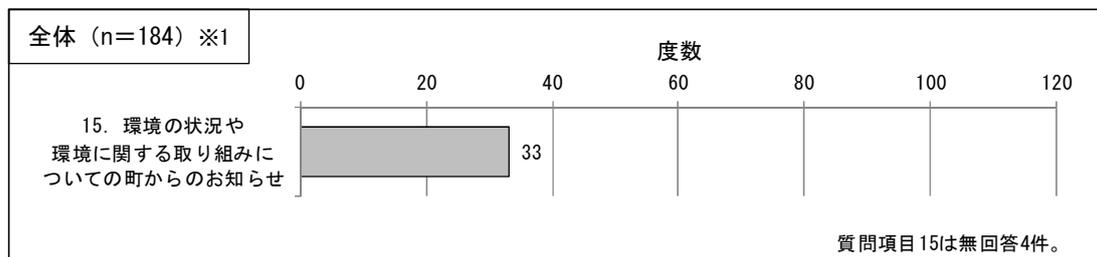
下図は、快適さ（質問項目 11～14）に関する居住地区別の重要度の違いを示した図です。



快適さに関する 4つの項目について、すべての地区において半数以上の回答者が「重要」と感じています。特に中山地区（市街化区域・市街化調整区域）においては、4つの項目とも「重要」の割合が上位になっています。

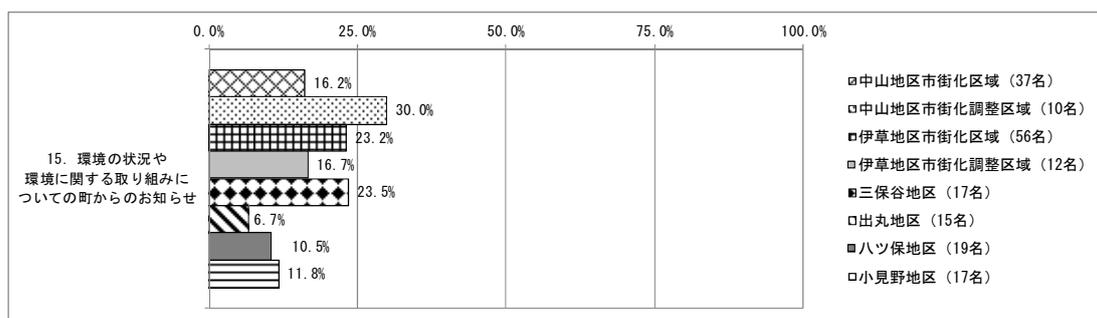
### (3) 環境に関するお知らせについて

#### ■ 関心度



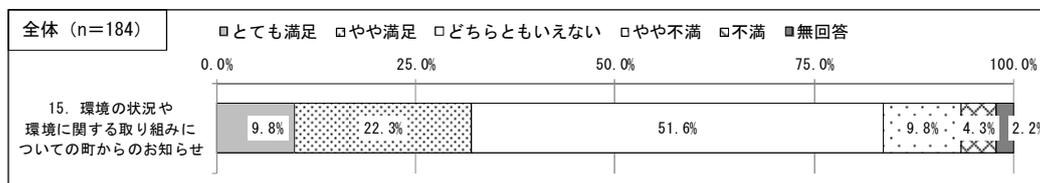
環境に関するお知らせの関心度については、「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」が33件となっており、全体を通して最も関心度が低い項目となっています。

環境に関するお知らせの関心度について、回答者の居住地区別の相違を以下に示します(各居住地区の回答者数に占める関心を持っている人の割合)。



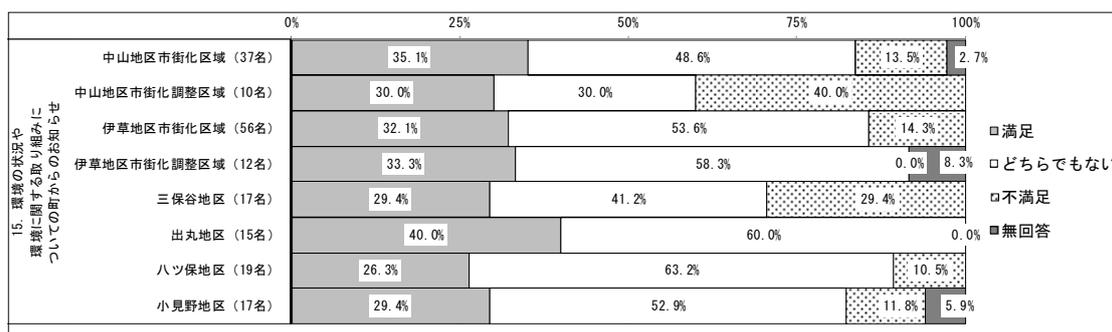
「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」については、中山地区市街化調整区域(30.0%)が関心を持っている回答者の割合が最も高く、次いで三保谷地区(23.5%)、伊草地区市街化区域(23.2%)の順となっています。

#### ■ 満足度



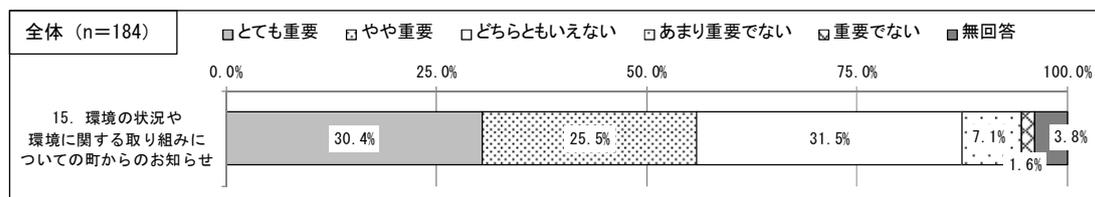
環境に関するお知らせの満足度に関しては、「とても満足」と「やや満足」の合計が32.1%となっています。

環境に関するお知らせについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める満足度(「とても満足」と「やや満足」の合計)の割合と不満足度(「不満」と「やや不満」の合計)の割合の相違を次ページに示します。



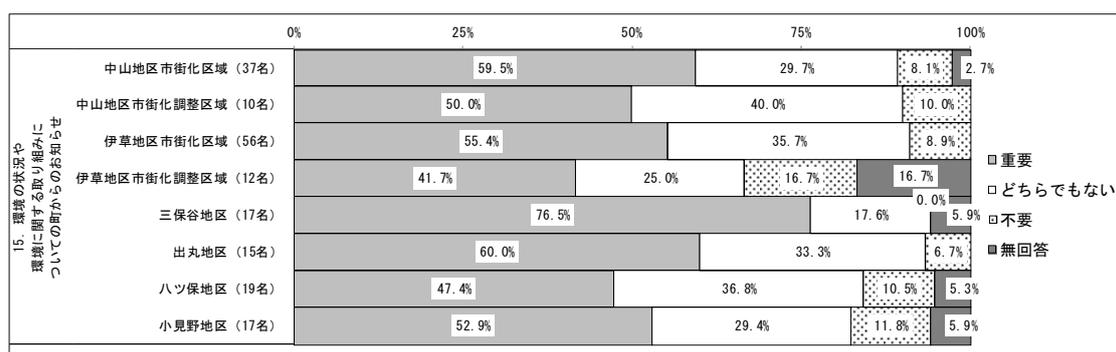
出丸地区において「満足」が40.0%と最も高く、「不満足」も0.0%となっています。中山地区市街化調整区域と三保谷地区において、「不満足」が他の地域よりも若干高くなっています。

### ■重要度



環境に関するお知らせの重要度に関しては、「とても重要」と「やや重要」の合計が56.0%となっており、半数以上の回答者が重要であると考えています。

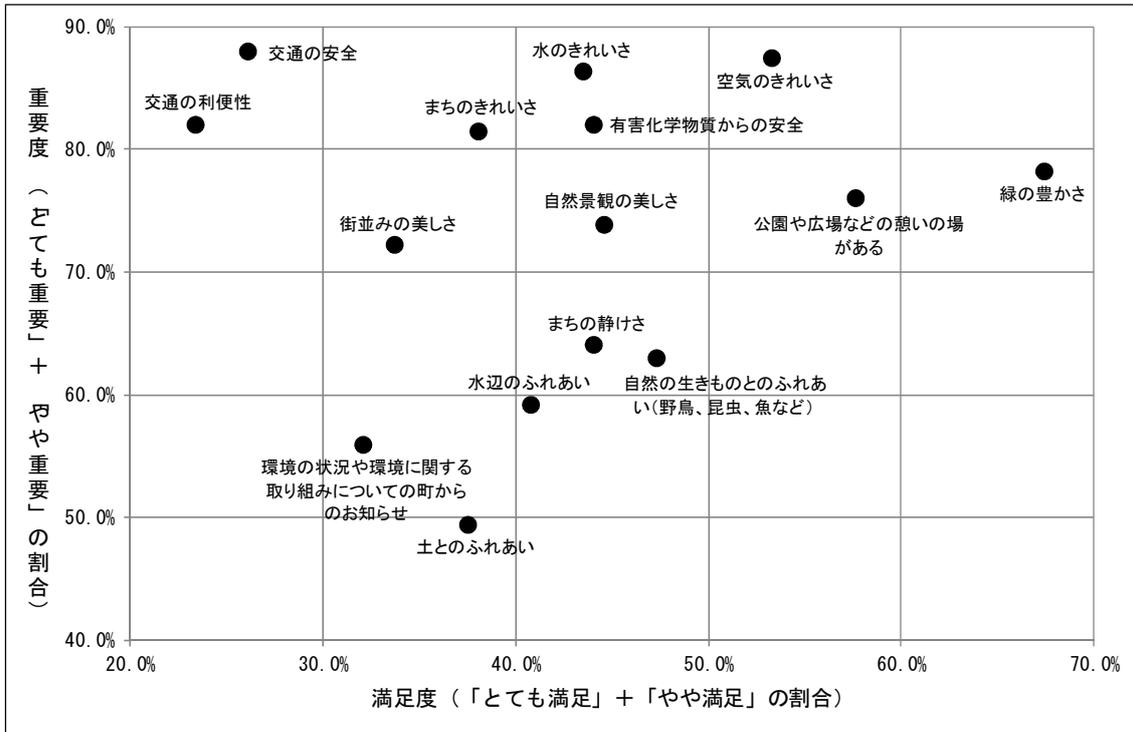
環境に関するお知らせの重要度について、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者に占める重要度（「とても重要」と「やや重要」の合計）の割合と不要（「重要ではない」と「あまり重要でない」の合計）の割合の相違を以下に示します。



「環境の状況や環境に関する取り組みについての町からのお知らせ」の重要度については、「重要」の割合は三保谷地区において76.5%と最も高く、次いで出丸地区（60.0%）、中山地区市街化区域（59.5%）の順となっています。

■ 満足度と重要度の関係

設定した 15 項目について、満足度（「とても満足」と「やや満足」を合わせた割合）と重要度（「とても重要」と「やや重要」を合わせた割合）の相関関係を以下に示します。



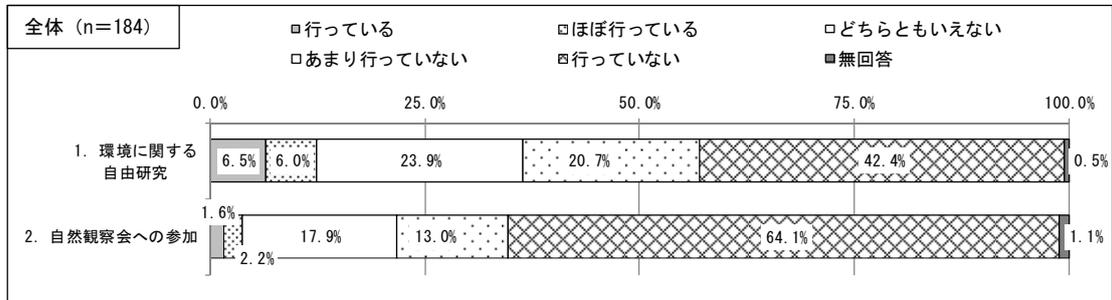
満足度と重要度の関係を見ると、「緑の豊かさ」は満足度も重要度も高く、今後も現状を維持していくべき項目と考えられます。「公園や広場などの憩いの場がある」や「空気きれいさ」については、設定した項目の中では満足度も重要度も高くなっていますが、満足度は 50～60%であり、さらなる増進を検討する項目といえます。

また、「交通の利便性」と「交通の安全」については、重要度が高いにもかかわらず満足度が 30%に満たず低い状況です。

### 3. あなたの日頃の環境保全に対する取り組みについて

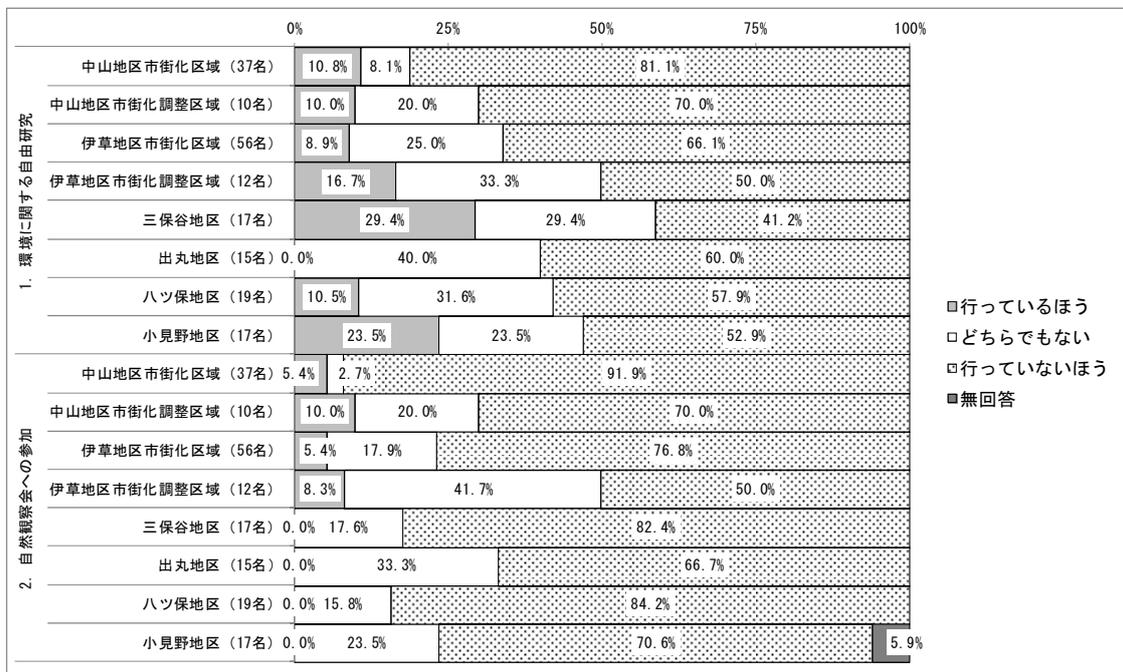
#### 問3-1

##### (1) 自由研究・観察会について



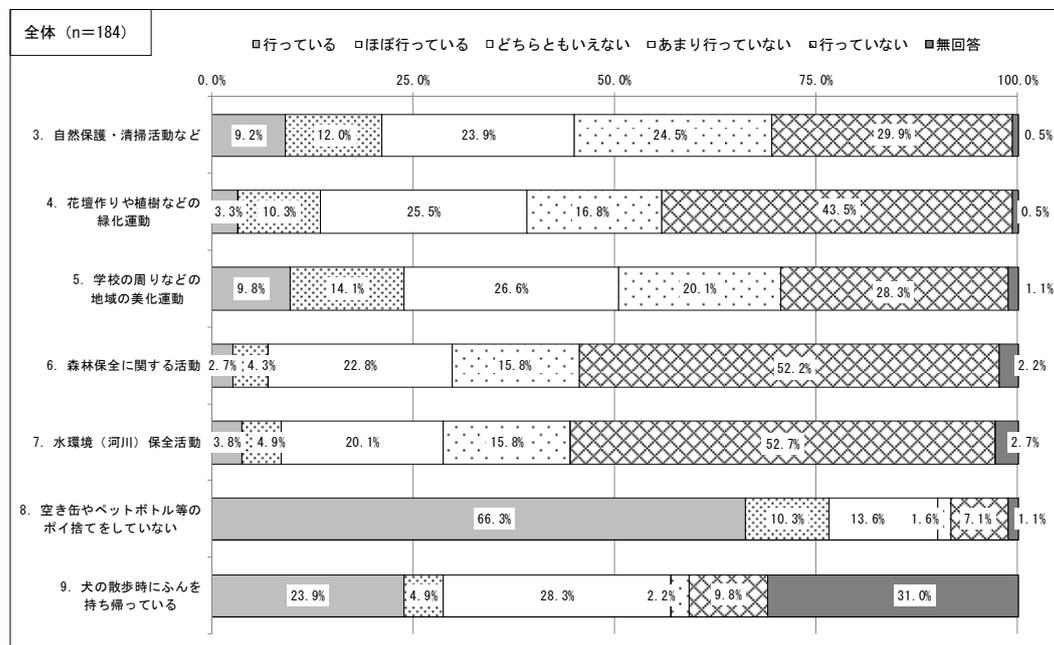
自由研究・観察会への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「環境に関する自由研究」は 12.5%、「自然観察会への参加」は 3.8%となっており、ともに取り組んでいる割合が低くなっています。

自由研究・観察会への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。なお、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計の割合を「行っているほう」、「行っていない」と「あまり行っていない」の合計の割合を「行っていないほう」としています。



「環境に関する自由研究」、「自然観察会への参加」とともに、すべての地区で「行っているほう」の割合が低くなっていますが、「環境に関する自由研究」に関して三保谷地区と小見野地区は、他の地域と比較して「行っているほう」の割合が若干高くなっています。

(2) 自然保護・清掃活動等について

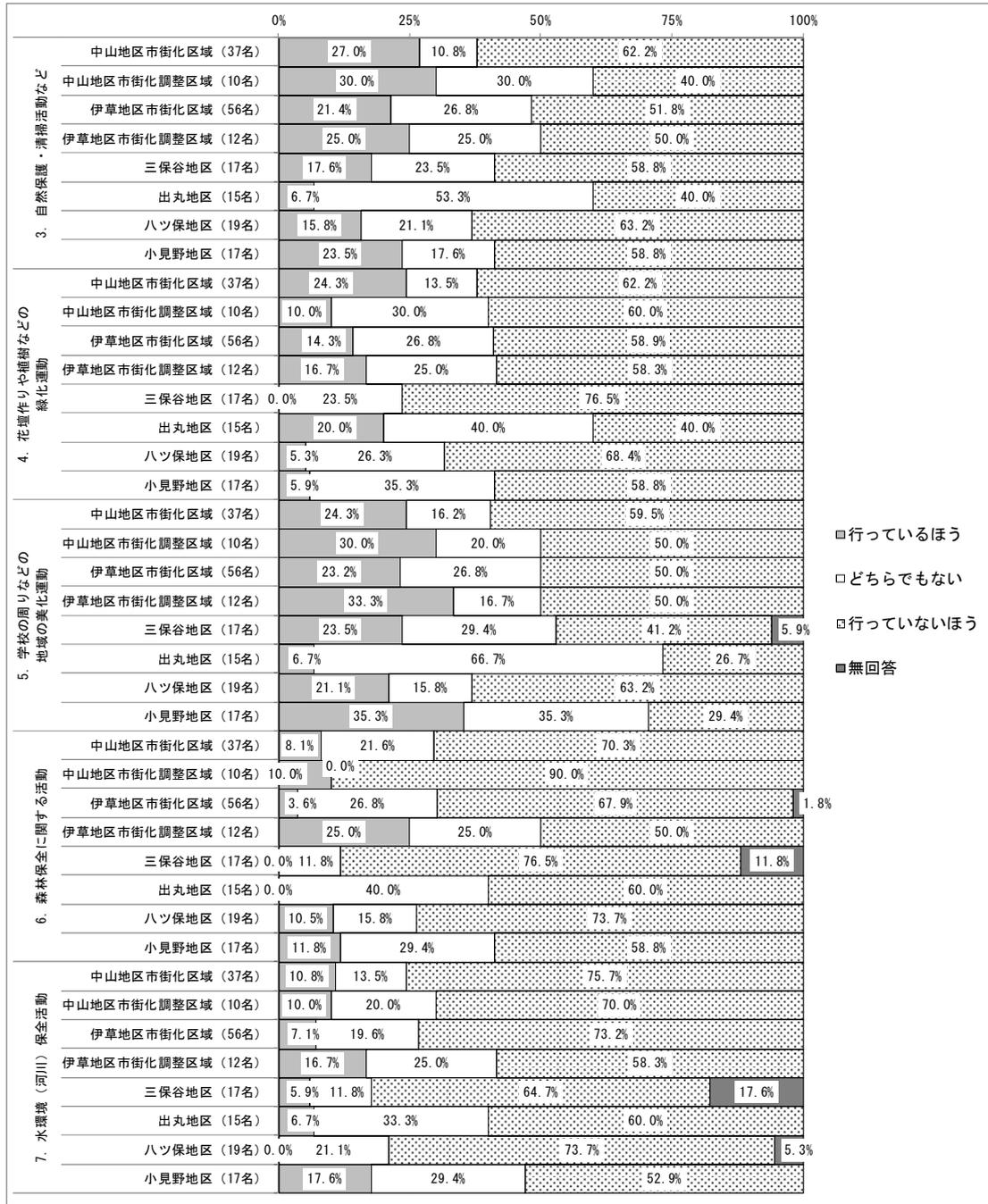


自然保護・清掃活動等への取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が、「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」で76.6%と最も高く、次いで「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」（28.8%）、「学校の周りなどの地域の美化運動」（23.9%）の順となっています。

「3. 自然保護・清掃活動など」～「7. 水環境（河川）保全活動」や先の自由研究・観察会への取り組みで挙げられた項目と比較すると、「行っている」との回答は「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」と「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」が高くなっています。この2つの取り組みは、日常生活の中で取り組むことができる内容であることから、行っている割合が高くなっていると推察されます。また、「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」において無回答の割合が多くなっていますが、これは犬を飼っていない回答者によるものと考えられます。

自然保護・清掃活動等への取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を次ページに示します。

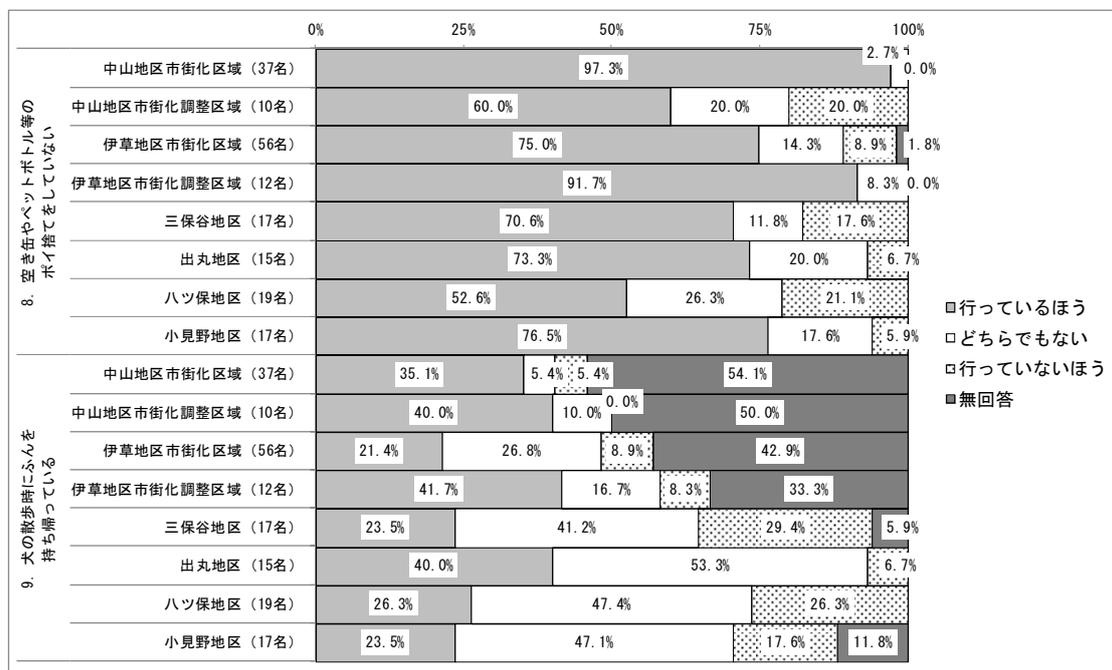
次ページの図は、活動や運動（質問項目3～7）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



□行っているほう  
□どちらでもない  
□行っていないほう  
■無回答

全体的に地区の違いによる大きな差はみられず、「行っているほう」の割合よりも「行っていないほう」の割合の方が高い傾向があります。「行っているほう」の割合は決して高くはありませんが、「学校の周りなどの地域の美化運動」に関しては、多くの地域で20%を超えており、他の活動・運動と比較すると「行っているほう」の割合が高くなっています。

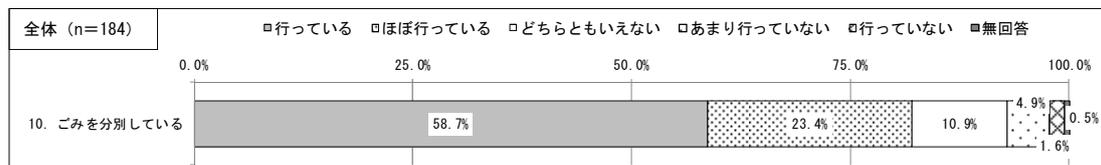
下図は、ごみ（質問項目 8～9）に関する居住地区別の取り組み度合いの違いを示した図です。



「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」については、すべての地区で「行っているほう」の割合が 50%を超えており、特に中山地区市街化区域と伊草地区市街化調整区域において 90%以上と高い割合がを示しています。

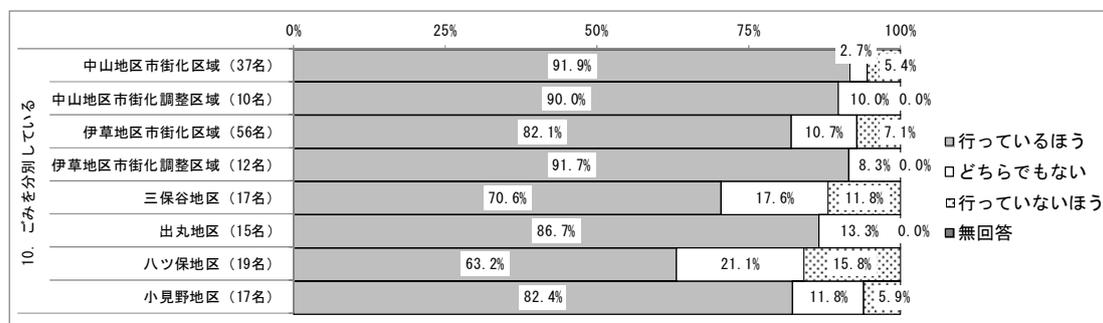
「犬の散歩時にふんを持ち帰っている」ともに、伊草地区市街化調整区域 (41.7%)、中山地区市街化調整区域 (40.0%)、出丸地区 (40.0%) において、「行っているほう」の割合が 40%を超えています。

### (3) リサイクル・省エネルギーについて



リサイクル・省エネルギーの取り組みについては、「行っている」と「ほぼ行っている」の合計が 82.1%と高くなっています。ごみの分別も、日常生活の中で取り組むことができる内容であることから、ポイ捨てをしないと様様に、取り組み度合いが高くなっています。

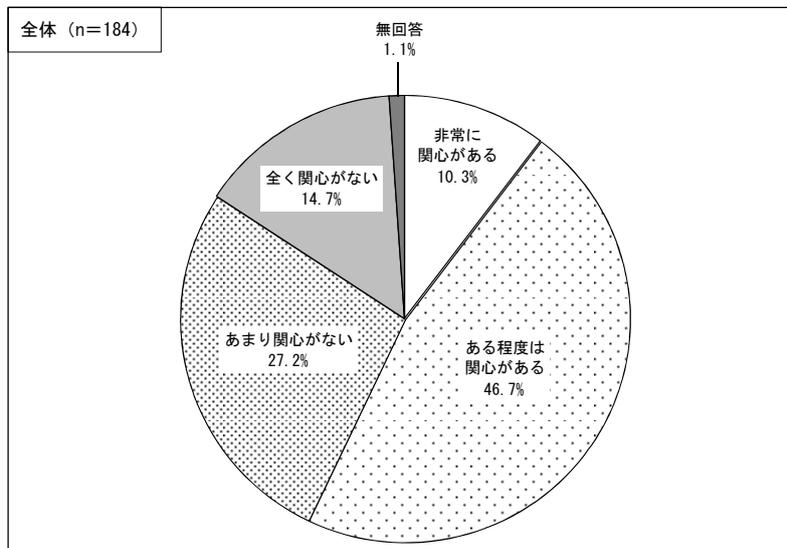
リサイクル・省エネルギーの取り組みについて、回答者の居住地区別に、各居住地区の回答者数に占める取り組み度合いの割合の相違を以下に示します。



ごみの分別について、すべての地区において「行っているほう」の割合が高いですが、特に中山地区市街化区域 (91.9%)、伊草地区市街化調整区域 (91.7%)、中山地区市街化調整区域 (90.0%) において 90%を超える高い割合を示しています。

その他の意見として、「犬のふんに関しては、うめている」、「夏は緑のカーテンを作っている」、「家の敷地のまわりに捨てられたゴミを拾っていることがたまにある」、「資源回収」、「油をふいてから洗い物をしている」などが挙げられていました。

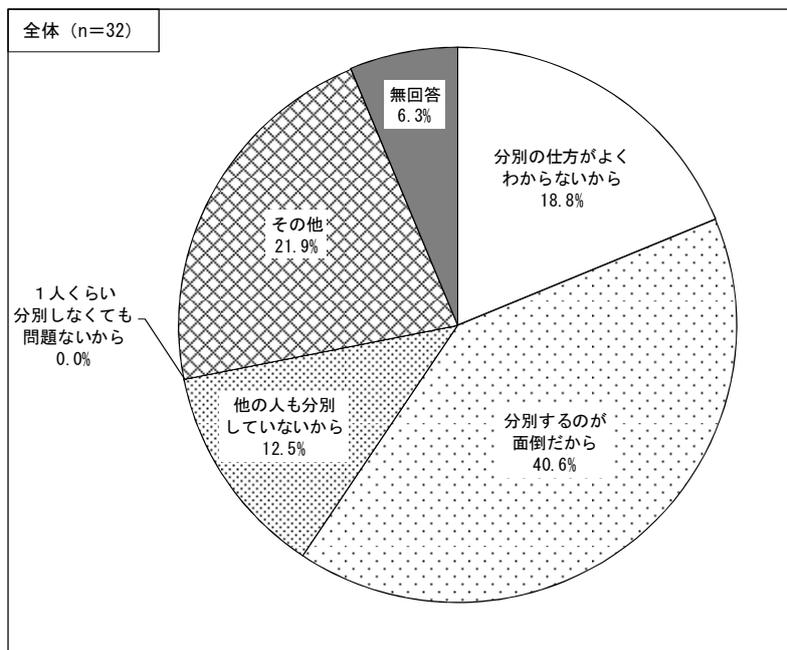
問 3-2



ごみの問題への関心については、「非常に興味がある」と「ある程度は興味がある」の合計が 57.0%と過半数を占めていますが、「あまり興味がない」と「全く興味がない」の合計も 41.9%と 40%を超えています。

ごみの捨て方だけがごみ問題ではありませんが、問 3-1 の「空き缶やペットボトル等のポイ捨てをしていない」や「ごみを分別している」では「行っている」の割合が高くなっていましたが、ごみ問題への関心の高さによる影響だけではなく、生活習慣によるものと考えられます。

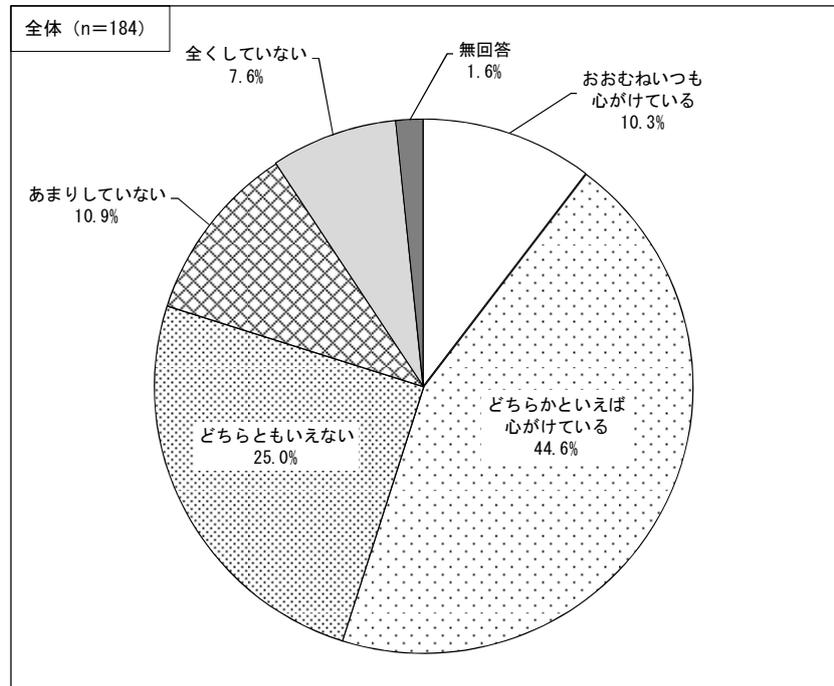
問3-3



ごみの分別を行わない理由については、「分別するのが面倒だから」が40.6%と最も高く、「分別の仕方がよくわからないから」も18.8%となっています。

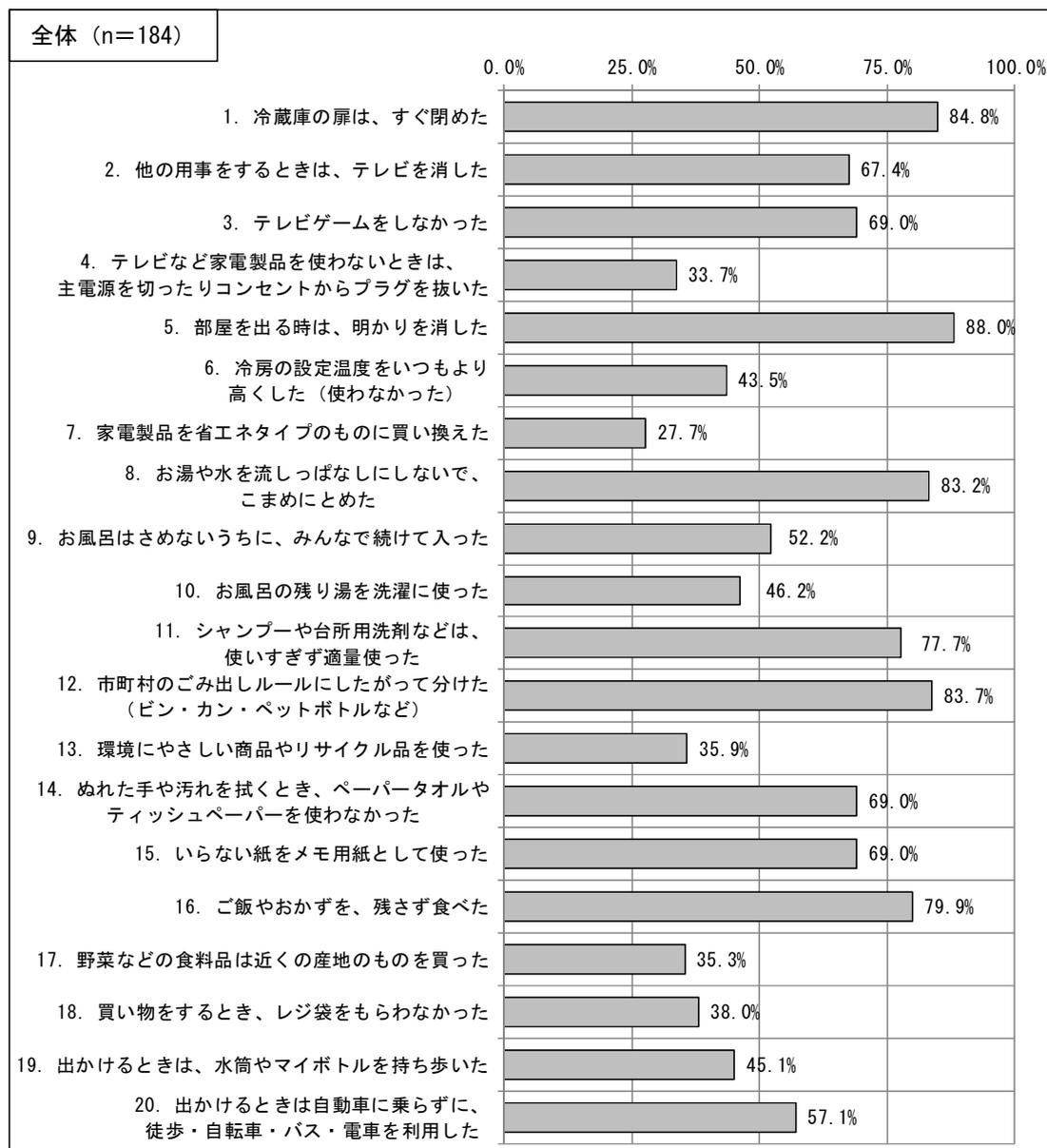
## 4. 地球温暖化防止に関する取り組みについて

### 問4-1



生活の中での地球温暖化防止に配慮した行動の心がけについては、「どちらかといえ心かけている」が44.6%と最も高く、次いで「どちらかといえ心かけていない」(25.0%)、「あまりしてない」(10.9%)の順となっています。「どちらかといえ心かけている」と「おむねいつも心かけている」を合計すると、過半数が生活の中で地球温暖化防止に配慮した行動を心かけていることがわかります。

問4-2



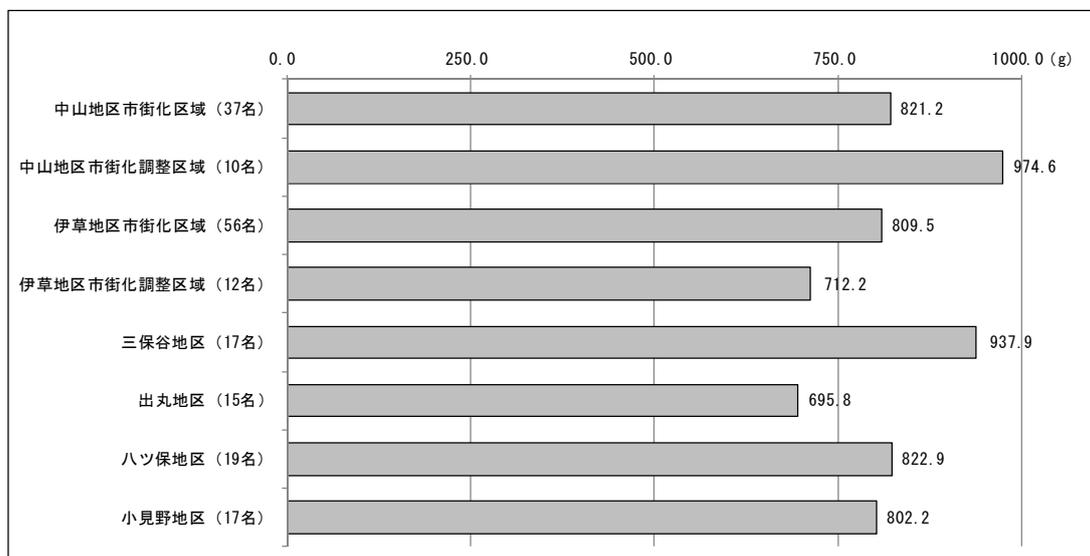
地球温暖化防止に配慮した行動について、それぞれの行動を行った人数の割合に注目すると、「部屋を出る時は、明かりを消した」が88.0%と最も高くなっています。次いで「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」(84.8%)、「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた(ビン・カン・ペットボトルなど)」(83.7%)、「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」(83.2%)の順となっており、基本的な生活習慣に関連する行動の割合が高くなっています。

各行動がどの程度の CO<sub>2</sub> 排出の抑制につながっているのかを示した図を以下に示します。下図では、各行動による CO<sub>2</sub> 排出の抑制量と行動を取った人数を掛け合わせ、その合計を求めた結果を示しています。



最も CO<sub>2</sub> 排出量が抑制された行動は、「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」(32,445g) となっています。この行動を取った回答者の割合の順位は中位程度でしたが、自動車に乗らないことによる CO<sub>2</sub> 排出の抑制量が大きいため、CO<sub>2</sub> 排出の抑制量が最も大きくなっています。

居住地区別にみた CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均（一人あたりの CO<sub>2</sub> 排出抑制量）を下図に示します。



居住地区別の CO<sub>2</sub> 排出抑制量の平均は、中山地区市街化調整区域が 974.6g と最も多く、次いで三保谷地区 (937.9g)、八ツ保地区 (822.9g)、中山地区市街化区域 (821.2g) の順となっています。

また、地球温暖化防止に配慮した行動について、居住地区別にそれぞれの行動を行った人数の割合を次ページの図に示します。なお、図が大きくなるため、質問項目を 5 つごとに分けて図を掲載しています。

次ページの図は、質問項目 1～5 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。

「冷蔵庫の扉は、すぐ閉めた」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区 94.1% と最も高く、次いで中山地区市街化調整区域 (90.0%) となっています。すべての地区で行った人数の割合が 75% を超えています。

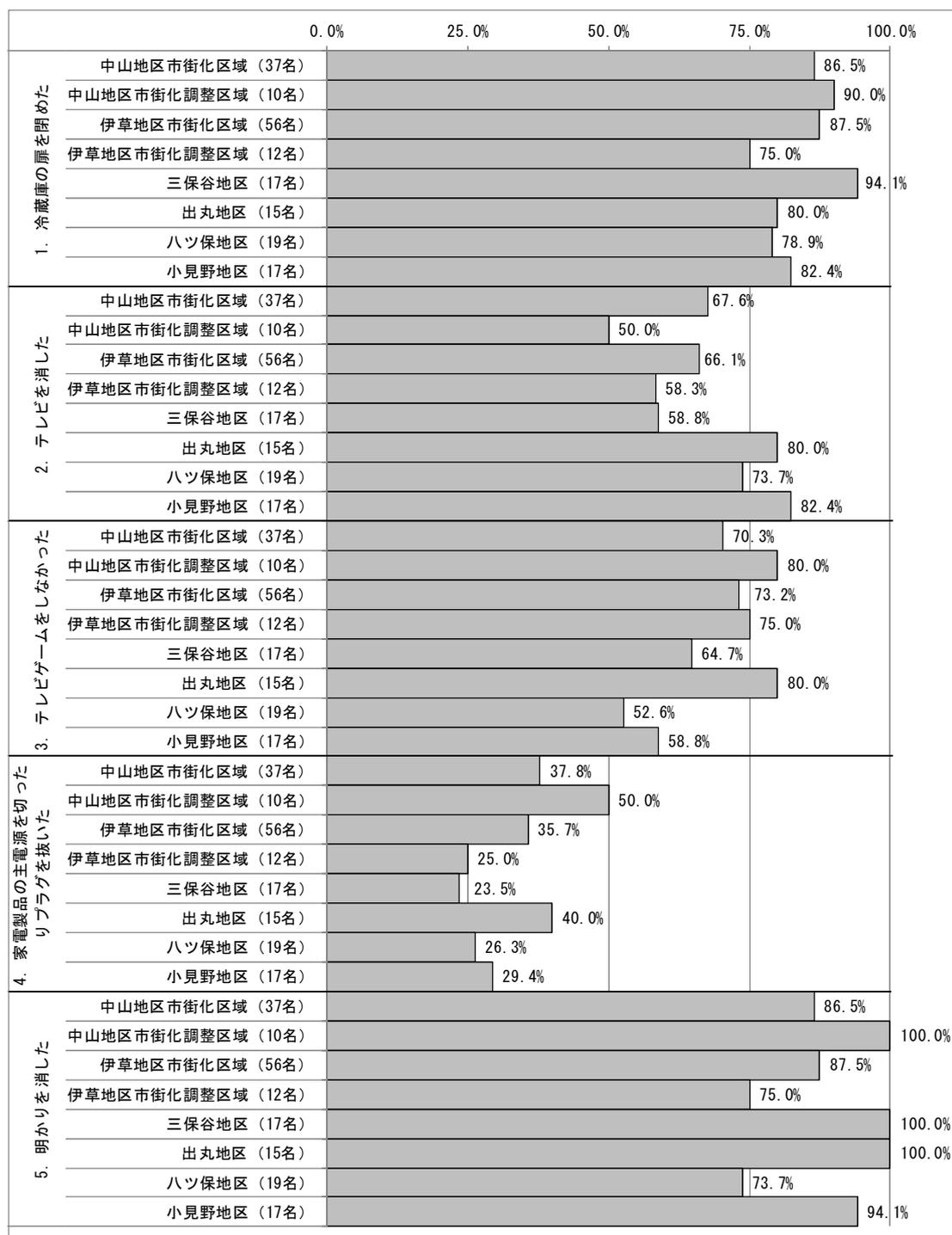
「他の用事をするときは、テレビを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 50% 以上ですが、その中で小見野地区 (82.4%) と出丸地区 (80.0%) で 80% 以上となっています。

「テレビゲームをしなかった」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で 50% 以上ですが、その中で中山地区市街化調整区域と出丸地区が 80.0% と最も高くなっています。

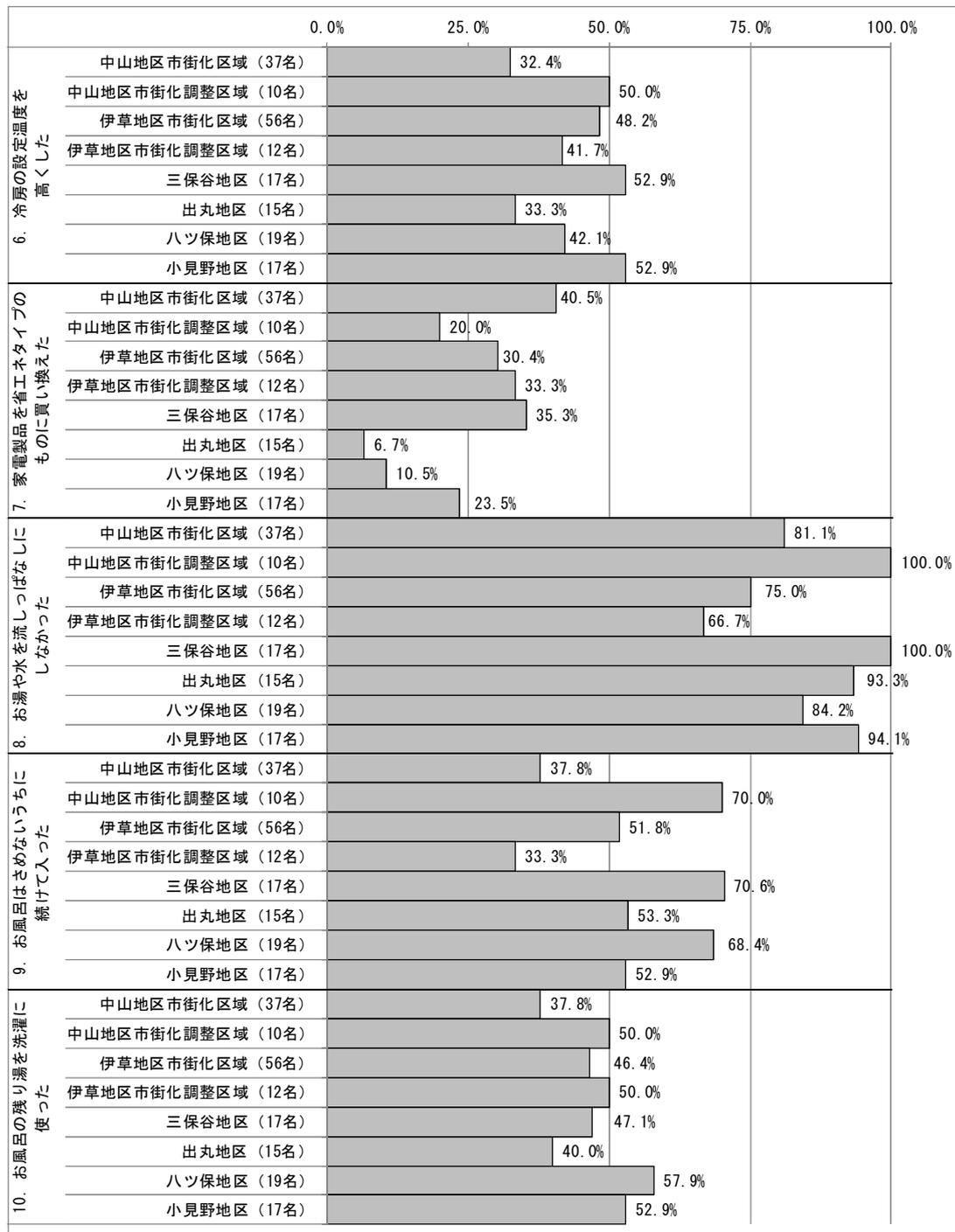
「テレビなど家電製品を使わないときは、主電源を切ったりコンセントからプラグを抜いた」については、中山地区市街化調整区域では半数が行っていますが、他の地区は半数未満であり、この行動を行った人数の割合が低くなっています。

「部屋を出る時は、明かりを消した」については、行動を行った人数の割合はすべての

地区で 70%を超えており、中山地区市街化調整区域、三保谷地区、出丸地区では回答者全員が行っています。



下図は、質問項目 6～10 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「冷房の設定温度をいつもより高くした」と「お風呂の残り湯を洗濯に使った」について、行動を行った人数の割合は、各地区で約 3 分の 1 から半数となっています。

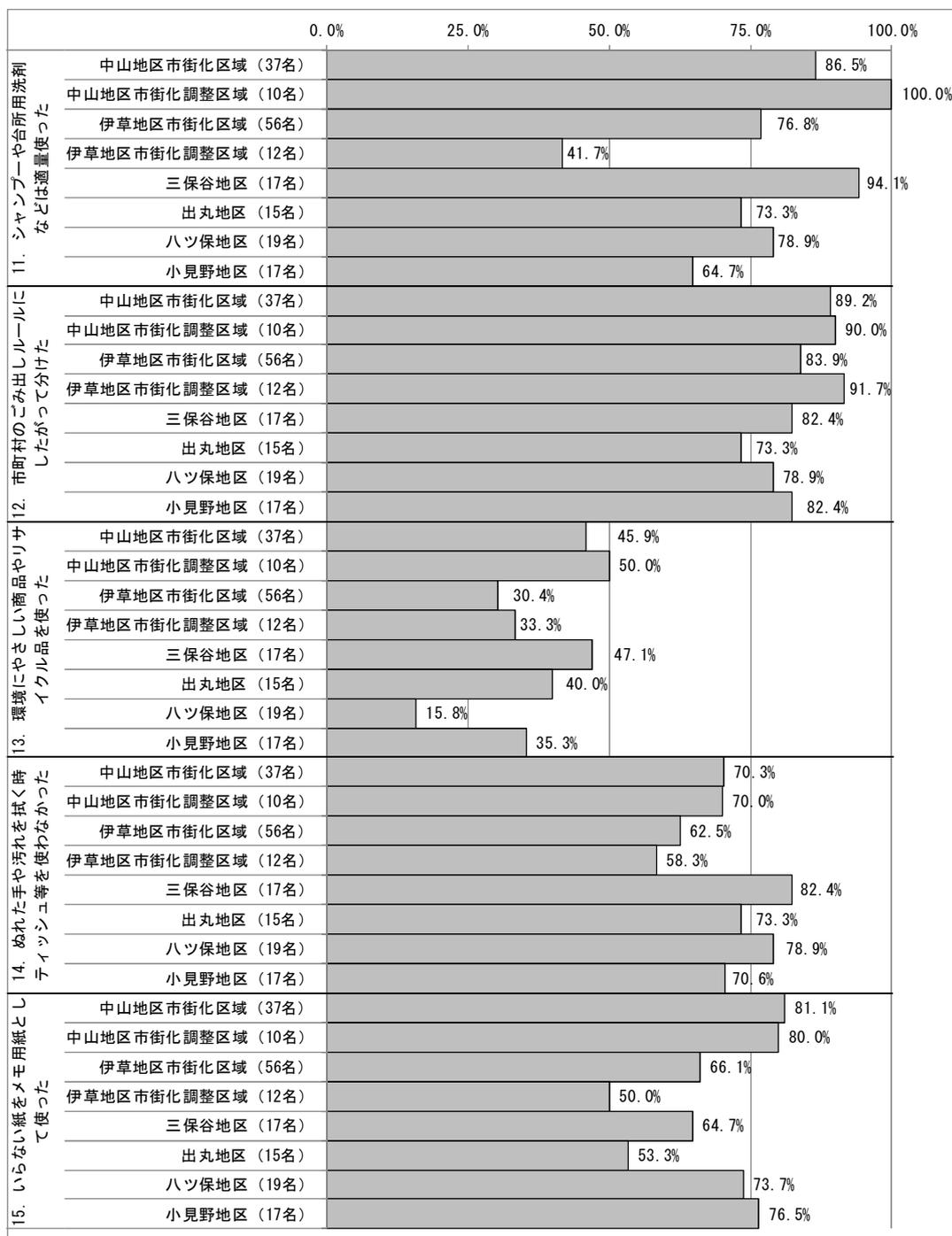
「家電製品を省エネタイプのものに買い換えた」については、行動を行った人数の割合

が最も高い中山地区市街化区域で 40.5%となっていますが、他の質問項目と比較すると、全体的に低い割合となっています。

「お湯や水を流しっぱなしにしないで、こまめにとめた」については、行動を行った人数の割合はすべての地区で高く、特に中山地区市街化調整区域と三保谷地区では回答者全員が行っています。

「お風呂はさめないうちに、みんなで続けて入った」については、行動を行った人数の割合は、三保谷地区（70.6%）や中山地区市街化調整区域（70.0%）では約 7 割の回答者が行っている反面、中山地区市街化区域（37.8%）と伊草地区市街化調整区域（33.3%）は 3 割程度にとどまっています。

下図は、質問項目 11～15 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「シャンプーや台所用洗剤などは、使いすぎず適量使った」については、ほとんどの地域で行動を行った人数の割合が高くなっていますが、伊草地区市街化調整区域は 41.7%と他の地域よりも低くなっています。

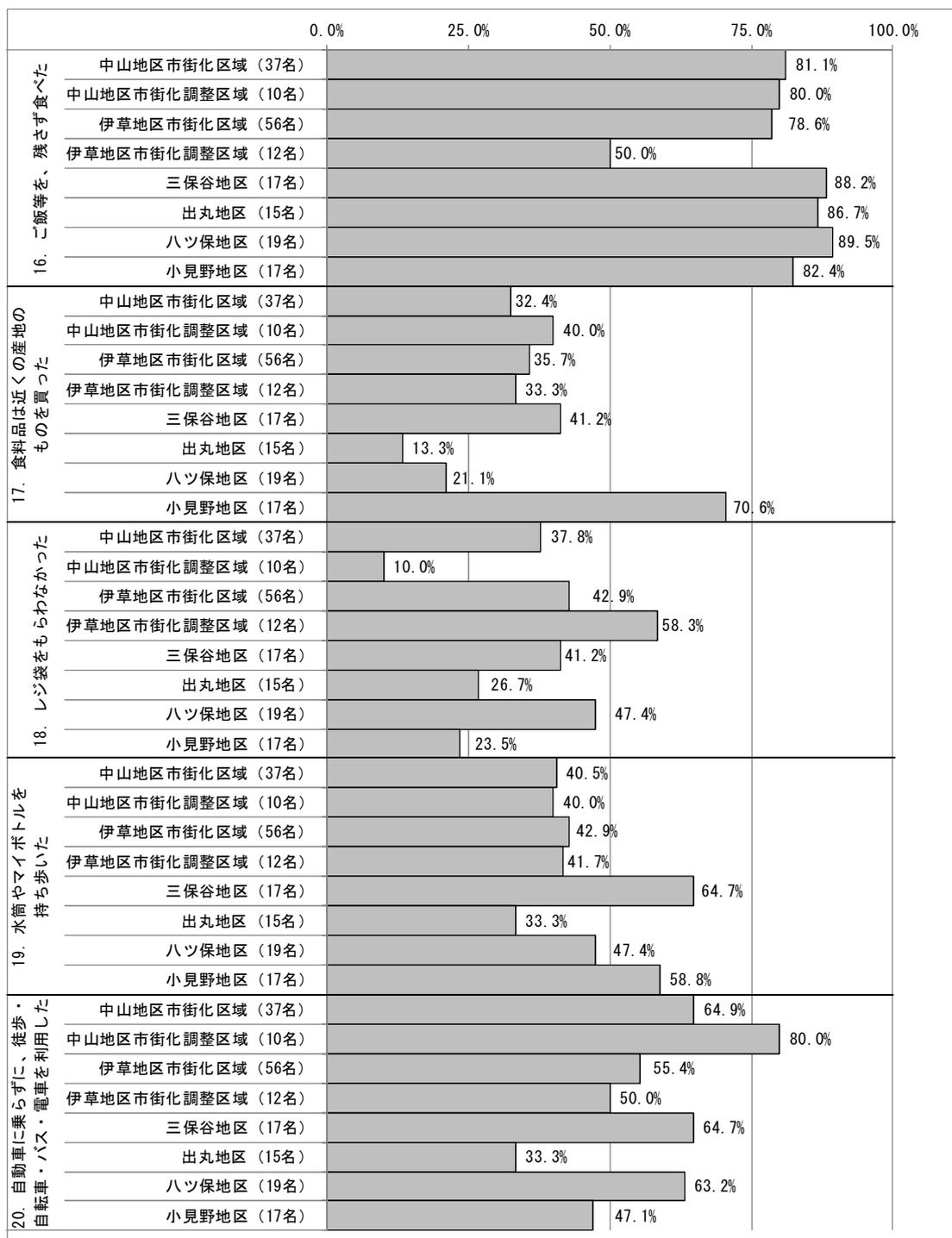
「市町村のごみ出しルールにしたがって分けた」については、行動を行った人数の割合

がすべての地域で70%を超えて高くなっています。

「環境にやさしい商品やリサイクル品を使った」については、行動を行った人数の割合は、中山地区市街化調整区域が50.0%と最も高く、次いで三保谷地区（47.1%）、中山地区市街化区域（45.9%）の順となっています。

「ぬれた手や汚れを拭くとき、ペーパータオルやティッシュペーパーを使わなかった」と「いらぬ紙をメモ用紙として使った」については、行動を行った人数の割合はすべての地域で半数以上の回答者が行っています。

下図は、質問項目 16～20 について、居住地区別の地球温暖化防止行動を行った人数の割合を示しています。



「ご飯やおかずを、残さず食べた」については、すべての地域で行動を行った人数の割合が 50%以上ですが、伊草地区市街化調整区域は 50.0%と他の地域と比較すると割合が低くなっています。

「野菜などの食料品は近くの産地のものを買った」については、行動を行った人数の割

合がほとんどの地域で半数以下である中で、小見野地区は70.6%と高くなっています。

「買い物をするとき、レジ袋をもらわなかった」については、行動を行った人数の割合は、伊草地区市街化調整区域が58.3%と最も高く、次いで八ツ保地区（47.4%）、伊草地区市街化区域（42.9%）の順となっています。

「出かけるときは、水筒やマイボトルを持ち歩いた」については、三保谷地区（64.7%）、小見野地区（58.8%）において、行動を行った人数の割合が半数を超えています。

「出かけるときは自動車に乗らずに、徒歩・自転車・バス・電車を利用した」については、行動を行った人数の割合が中山地区市街化調整区域（80.0%）において特に高くなっています。

## 5. 川島町の環境保全に関する取り組みについて

以下の項目につき意見が述べられた。詳細は付録2に示す。

ごみに関する意見

環境に関する意見

道路整備・交通に関する意見

その他

